

令和 4 年度

事業報告

概要版



社会福祉法人 鶯園

総括報告

令和4年度の事業報告は、鶯園ならびに千寿福祉会がそれぞれ実施した一年間の事業活動を、存続法人である鶯園の事業報告として報告するものです。

本年度は、従来から連携法人として歩んできた、鶯園と千寿福祉会の合併に向け準備を進めた重要な1年となりました。両法人の合併合意から各関係所轄庁との協議、両法人の各種規程や職員処遇に関する調整、利害関係者への周知等を行ない、令和5年4月3日付で登記を行い、無事合併を完了しました。

10月には、合併を心待ちにされていた理事長小林敏隆氏の死去という悲しく、残念な出来事がありました。役職員が一丸となって名実ともに一つの法人としての事業体制を確立することが出来ました。

それぞれの実施事業の概要ですが、両法人の各分野の事業は、概ね順調に活動することが出来ました。しかし、一部の事業では収支が採算ベースを割り込み課題を残しています。とくに、通所介護事業は押しなべて稼働が低迷し、従来踏襲では業績が低迷するという構造的な課題が浮き彫りになっており、改善方針の具体化が求められる状況です。

また、今年度も年間を通じて、新型コロナウイルス感染症（以下、「新型コロナ」という。）の感染者・濃厚接触者等が発生し、その対応による影響が続きました。そのため、利用者の活動制限や各種行事の中止・規模縮小、在宅サービスの休止・利用制限、家族等との面会制限、学級閉鎖（保育）など、利用者の生活や提供するサービスに影響が広がりました。入居者・利用者の生活を中心に、家族支援・対応も含めてきめ細かな対応が求められました。

合わせて、感染症対応の事業継続計画（以下、BCPという。）の樹立、確実な運用、感染予防策の徹底、迅速な報告・連絡の徹底が求められました。このBCPは、災害対応BCPとともに、2024年4月より策定が義務化されます。各拠点、事業所では「対策マニュアル」は整備したものの、BCPとしての整備に至っていないところもあるため、確実な整備が来年度の課題です。

人材確保は厳しい状況が続いています。とくに介護人材の確保難が続いています。引き続き計画的な採用活動を進めるとともに、職員の定着促進のための活動を進めました。処遇改善とともに、採用の多くを占める中途採用者に対する研修・指導の内容と方法を工夫して、早期離職を防止する取り組みを進め、一定の成果を上げています。保育部門については、厳しい環境に変わりはありませんが、新設園の職員も含めて確保が出来ています。

外国人雇用については、EPAならびに技能実習生の雇用が定着してきています。新たに導入された在留資格「介護」の活用も具体化しました。EPAにより来日した介護福祉士候補生が国家試験に合格する例が相次ぎ、成果が上がっています。一方、資格取得を契機により良い条件を求めた流出も顕在化しており、課題となっています。

就労継続支援B型事業等で、利用者による芸術性のある作品が社会的に評価され、事業所活動での利用とともに、企業・個人からの活用オファーが増加しています。著作権者（制作者）の権利を守る仕組みを確立するとともに、事業所全体の活動の発展に結びつける取り組みを進めました。フリードライ製法を活用した事業を展開する事業所では、民間企業からの大口受注もあり、活動が本格化しています。

法人理念を中心に据えた計画的な職員の育成、資質向上のための取り組みを進めるため、研修体系の確立、OJTリーダーの養成などが課題です。新規採用者研修や定着フォローアップについて、プロジェクトを立ち上げて企画を開始しました。

法人理念の浸透・定着は、新任職員研修をはじめ各級研修に位置づけ、進みつつあります。しかし、日々の業務に関連づけた具体化については課題が有ります。合併後は千寿福祉会の法人理念を合併法人の理念とすることとしたため、鶯園での浸透・定着は次年度の課題です。

地域社会との関係では、地域包括ケアの推進が重視され、その主軸である高齢者・障害者の在宅生活の継続、復帰支援は勿論のこと、「地域共生社会」をキーワードに、分野を横断した地域生活支援の体系が求められ、高齢分野にとどまらず児童・障害をはじめ、すべての地域生活者に対する福祉的サポートシステムの”代名詞”となりつつあります。法人では、こうした方向性に対して現有事業での貢献は勿論、地域支援や制度に馴染まない事業・活動の実施や参画を進め、地元自治体や地域社会との協力・協働を進めました。

合併の経過

年月日	内 容
令和4年 6月 9日	鶯園小林敏隆理事長より千寿福祉会に対し合併の申し入れ 両法人理事会で合併協議開始の評議員会上程を決議
令和4年 6月 24日	両法人評議員会で合併協議開始を決議 合併趣意書調印
令和4年 7月 28日	両法人理事会で合併の承認を決議 基本合意書及び秘密保持契約書調印
令和4年 8月 16日	両法人評議員会で合併の承認を決議 合併契約書調印
令和4年 9月 7日	岡山県に合併認可申請書を提出
令和4年 10月 11日	鶯園小林敏隆理事長逝去
令和4年 10月 15日	鶯園理事会で小林和彦新理事長を選出
令和5年 1月 17日	合併認可
令和5年 4月 3日	合併登記

実施事業概要

■旧鶯園・岡山事業

1. 介護老人福祉施設
 - 特別養護老人ホーム鶯園
 - 特別養護老人ホーム千寿荘
2. 地域密着型介護老人福祉施設
 - 特別養護老人ホーム千寿荘（東館）
3. 短期入所生活介護
 - 特別養護老人ホーム鶯園
 - 特別養護老人ホーム千寿荘

- | | |
|----------------------|--|
| 4. ケアハウス・特定施設入居者生活介護 | サンシティうぐいす |
| 5. 通所介護 | 鶯園デイサービスセンター
デイサービスセンター椿寿荘
蒜山デイサービスセンター |
| 6. 認知症対応型共同生活介護 | グループホームうぐいす
グループホーム津山
グループホーム蒜山
グループホーム美和 |
| 7. 老人居宅介護 | 鶯園ホームヘルパーステーション |
| 8. 居宅介護支援 | 鶯園居宅介護支援事業所
蒜山居宅介護支援事業所 |
| 9. 就労継続支援（A型）事業 | 青空ワークス |
| 10. 就労継続支援（B型）事業 | フリーズドライ工房まにわ |
| 11. 放課後等デイサービス事業 | L i e b e |
| 12. 有料老人ホーム | 白梅寮 |
| 13. 診療所 | 鶯園診療所 |
| 14. 収益事業 | 売電の事業 |

■旧千寿・岡山事業

- | | |
|----------------------|---|
| 1. 障害者支援施設 | みすず荘
吉備高原清和荘
さやかなる苑 |
| 2. 介護老人福祉施設 | 特別養護老人ホーム ロマンシティあいだ |
| 3. ケアハウス・特定施設入居者生活介護 | ケアハウス百壽 |
| 4. ケアハウス | ケアハウスA I D A |
| 5. 生活介護事業 | みすず荘
吉備高原清和荘
さやかなる苑（共生型通所介護事業を含む）
神南備園（共生型通所介護事業を含む）
そうじゃ晴々 アクティビティハウス空 |
| 6. 短期入所事業 | みすず荘
吉備高原清和荘
さやかなる苑 |
| 7. 日中一時支援事業 | みすず荘
吉備高原清和荘
さやかなる苑 |

- | | |
|------------------|---|
| | 神南備園 |
| 8. 共同生活援助事業 | そうじゃ晴々 アクティビティハウス空
姫山の里、瓜生原、よりそい津山口 |
| 9. 障害者グループホーム | そうじゃ晴々 グループホーム星
そうじゃ晴々 グループホーム月 |
| 10. 就労継続支援（B型）事業 | ホワイト
そうじゃ晴々 アクティビティハウス空 |
| 11. 特定相談支援事業 | 神南備園
相談支援事業所そうじゃ晴々 |
| 12. 一般相談支援事業 | 相談支援事業所そうじゃ晴々 |
| 13. 障害児相談支援事業 | 神南備園
相談支援事業所そうじゃ晴々 |
| 14. 短期入所生活介護 | 特別養護老人ホームロマンシティあいだ |
| 15. 通所介護 | デイサービスセンターふれあい
デイサービスセンター湯郷
さやかなる苑（共生型）
神南備園（共生型） |
| 16. 認知症対応型共同生活介護 | グループホームほほえみ
グループホーム百
グループホームみすず
グループホーム清和
グループホーム湯郷 |
| 17. 老人居宅介護 | ヘルパーステーションあいあい |
| 18. 老人介護支援センター | 居宅介護支援事業所英田 |
| 19. 人材育成事業 | みすず荘
吉備高原清和荘
さやかなる苑
ロマンシティあいだ |
| 20. 収益事業 | 売電の事業 |

■神戸介護事業

- | | |
|-------------|---|
| 1. 介護老人福祉施設 | 特別養護老人ホームロングステージ灘
特別養護老人ホームロングステージ KOBE 岡本
特別養護老人ホームロングステージ御影
特別養護老人ホームロングステージ KOBE 大石 |
| 2. 短期入所生活介護 | 大石高齢者介護支援センター
特別養護老人ホームロングステージ KOBE 岡本
特別養護老人ホームロングステージ御影 |

特別養護老人ホームロングステージ KOBE 大石

3. ケアハウス・特定施設入居者生活介護

ケアハウスロングステージ KOBE 大石

4. 認知症対応型共同生活介護

グループホーム御影

5. 通所介護

大石高齢者介護支援センター

特別養護老人ホームロングステージ KOBE 岡本

灘在宅福祉センター

6. 居宅介護支援

大石高齢者介護支援センター

灘在宅福祉センター

7. 地域包括支援センター

大石高齢者介護支援センター

灘在宅福祉センター

■兵庫県下保育事業（鶯園・千寿福祉会）

1. 保育所(含む分園)

宝塚COCORO保育園

琵琶COCORO保育園

琵琶COCORO保育園まや分園

桜町COCORO保育園

御影COCORO保育園

石屋川COCORO保育園

みなとじまCOCORO保育園

2. 幼保連携型認定こども園

魚崎COCORO

六甲道COCORO

高羽COCORO

ゆりのきCOCORO

3. 一時預かり事業

魚崎COCORO

高羽COCORO

宝塚COCORO保育園

4. 小規模保育事業

保育ルーム ちいさなCOCORO

保育ルーム 琵琶ちいさなCOCORO

保育ルーム 宝塚ちいさなCOCORO

保育ルーム まやちいさなCOCORO

保育ルーム 三宮ちいさなCOCORO

保育ルーム 磯上ちいさなCOCORO

保育ルーム ゆりのきちいさなCOCORO

保育ルーム あかしちいさなCOCORO

5. 送迎保育ステーション

磯上COCOROステーション

三宮COCOROステーション

6. 放課後等デイサービス事業

こころんクラブ高羽

(児童発達支援事業)

7. 放課後児童クラブ
- こころんクラブ中山寺
 - こころんクラブ山本
 - こころんクラブ長尾南
 - こころんクラブ長尾

事業実施状況総括

旧鶯園

【うぐいす拠点】

●特別養護老人ホーム鶯園

特別養護老人ホーム・短期入所生活介護

1. 法人の理念、職務行動方針を理解し、意識の向上に努めます。
→ 法人、施設として利用者により良いサービスの提供を行うために、理念、行動指針については、施設内で提示し、理念カードの携帯により職員への周知を行っています。また、職員会議で話し合い、職員全体の意識を高めました。
2. 多岐にわたるハラスメントの理解とその未然防止のため、利用者、職員の考え方の把握に努め、施設が取り組むべき姿勢を明確化していきます。
→ ハラスメントに関する相談窓口を設置しており、引き続き、ハラスメントに対する職員の意識向上を図ります。
3. 虐待防止、身体拘束廃止の為、委員会を開催し、研修などを通して、その対策と意識の向上に取り組めます。
→ 研修を通じて拘束とは何かを理解し、言葉使い、接遇を改めて考えることができました。
4. 地域の福祉拠点であることを理解し、災害時の対応を明確にし、必要物資や機材の確保、点検を行います。
→ 年2回の総合訓練を実施し、災害発生時の実践を行いました。多発する自然災害の状況を考慮し、災害に備えた必要物資の確保に取り組みました。
5. 利用者の見守りと記録、職員の業務効率化に向けて ICT の導入と活用を進めます。
→ 介護記録業務等のため、新たに介護記録ソフトを導入し、利用者の介護に関する記録等や請求事務が効率的に行えるようになりました。

[介護部門]

1. 居住環境整備

利用者個々の身体状況や生活習慣に応じた、安心・安全・安定した居住環境のスペース及びホールの清潔と環境整備に努めています。

- ・ 誕生月に写真を撮り部屋へ飾り、ガーデニングクラブを中心に観葉植物、四季折々の生花を飾り利用者の笑顔につながる支援を行っています。又、風情のある生活空間やディスプレイの壁面にて季節を感じて頂いています。
- ・ 県内の木材を使用した床頭台やタンスを置き温かみを感じ、安心して過ごしてもらえるよう支

援しています。

- ・訪室時や月一回担当職員による居室掃除と年2回の衣替えを行い、車椅子の掃除と不備の点検を行い居心地良い生活が送れるように努めています。

2. 自立支援とQOLの向上

自立支援と利用者の身体状況に応じて寝食分離・寝排分離を目標にしてADLの向上に向けての支援を行っています。

- ・個々に応じた排泄方法（布パンツ）にて自分らしい生活を送って頂けるよう支援しています。
- ・レクリエーションや生活リハビリ、行事に参加し生活の範囲を拡大しQOLの向上に努めています。
- ・利用者の主体性や意志を尊重し、各部署や職員で共有し個別援助計画に添っての生活支援を行っています。
- ・ニコニコ会だけでなく日々利用者の意見や要望をお聴きし、その都度対応しています。

3. 健康管理・感染症対策

職員の健康管理の徹底を図り、自己管理に努めています。

- ・職員全員に年1回の定期検診と夜勤者は年2回の定期検診を行っています。
- ・自己管理と徹底と予防に努め、早期治療や早期対応に努めています。
- ・新型コロナワクチン接種、インフルエンザワクチン接種の実施を行い、新型コロナ感染予防の自己チェック、手洗いうがいの励行と施設からの対応の徹底を継続しています。
- ・感染対策の実施として（施設内の清掃、手すりの消毒、マスク、ゴム手袋の着用）の徹底を行い随時、感染症対応が出来るように、各棟に感染症グッズを設置しています。

4. プロフェッショナルとしての技術の向上を図りスキルアップに努めています。

- ・新任職員に、担当職員が介護マニュアル研修を行い、業務はマンツーマンでの指導にて早期に習得してもらえるようにします。又、定期的面談や精神的サポートもその都度行っています。
- ・毎月のスキルアップ研修は、各施設でリモート研修を行い、資料を全員に配布しスキル向上を図っています。
- ・月一回主任会議を行い各棟の課題等を検討し全職員に伝達を行いチームワークの強化に努めています。
- ・各種委員会を2ヶ月1回開き、活動内容と反省、目標を報告しています。
事故防止委員会は、事故報告に基づき検証し再発防止に努めています。
身体拘束委員会、虐待防止委員会に関しても2ヶ月に一回開催し、検討事項や予防について話し合い周知徹底を行っています。
- ・排泄委員会は、個々の利用者に応じた排泄方法を実践、検討し全職員に伝達、徹底、実行を行っています。

5. 接遇マナーの徹底

- ・委員会を中心に職員1人ひとりが意識的に取り組み注意しお互いを向上していくように努めています。
- ・利用者、来客者、職員間の挨拶、言葉遣いに気をつけ、その都度注意しています。
- ・身だしなみとして月一回の服装チェックを行い、身なりを整え、介護職員として恥じないよう

に努めています。

●軽費老人ホームサンシティーうぐいす

介護予防特定施設入居者生活介護・特定施設入居者生活介護・一般ケアハウス

【全体】

1. 法人の理念、MIND、職務行動方針を職員でよく理解ができるように丁寧に説明し、意識の向上に努めより良い環境の中でサービスを提供できるように努めます。
→ 職員会議で説明や話し合いをし、意識の向上に努めました。
2. 感染症（新型コロナ等）や災害への適切な対応ができるよう策定した、事業継続計画（BCP）について拠点内の事業者間で見直しを行う。また、感染症や災害発生時における利用者や職員、地域避難者の安全を守る為、平素より正確な情報の把握に努め感染予防に取り組み、必要資材や機材の確保点検を行い、法人内相互による支援体制の構築を進めます。
→ 施設間の情報の共有を行いました。
3. 職場における多様なハラスメントも未然防止の為、職員の人権や思考の多様性を把握、尊重し、施設の取り組むべき姿勢と責務を明確化していきます。
→ 施設内外の研修を受けて職員の知識や意識の向上に努めました。
4. 利用者への虐待防止・身体拘束廃止の為、虐待防止・身体拘束適正化委員会等の開催や研修を通じて、その対策と意識の向上に取り組みます。
→ 今年度も拘束はありませんでしたが言葉掛けとか職員も気が付かないうちに行っている虐待・拘束を予防するために研修を受けて、各人が考えることができました。また、定期的に委員会や適正化委員会を開催しています。
5. 利用者の見守りと介護記録や職員の情報共有の円滑化・介護業務の負担軽減をはかる為、効率化に向けてICTの導入と活用を進め、利用者により安全で余裕のあるサービスの提供をいたします。
→ 施設の特徴に合わせた介護ソフトに移行しています。これからも改良継続中です。

サービス提供の状況

1. 相談部門

新型コロナの関係で家族との面会が再開と中止を繰り返しました。利用者や家族が不安にならないような対応を心がけました。

2. 介護部門

職員間の情報の共有に努めました。統一した介護が提供できるように作られたマニュアルの見直しを職員会議で協議し、より良い対応ができるように努めました。

細かい指示はノートの回覧やSMSを利用し意思疎通をいたしました。

3. 看護部門

施設での対応には限界もありますが主治医との連携で体調の変化には早急な対応ができたと思われま。家族には日ごろからの報告と説明を心がけています。利用者が新型コロナに1名感染されたが1名で終息し安堵しました。これからも感染予防努めます。

4. 調理部門

利用者が美味しく食べて頂けるように食事形態を工夫しました。また、衛生管理面では特に注意し、職員の体調管理も心がけました。

5. リハビリ

生活の中でのリハビリが中心となりますが、廊下の往復や簡単な筋力体操を行っています。特に朝のラジオは利用者が各自、体が動く範囲で行っています。

●有料老人ホーム白梅寮

特定施設入居者生活介護、予防特定施設入居者生活介護、短期入所、有料老人ホーム

[全 体]

1. 法人理念、M I N D、職務行動指針は、事業運営とサービス提供上の中核であり、施設、職員が同じ方向性を保つために必要なものです。職員に浸透していけるよう意識を統一していきます。
→ 法人、施設としての利用者により良いサービスの提供を行うために重要となる理念、行動指針については、施設内での掲示や理念等を記載したカードの携帯により職員への周知を行っています。また、日々の業務や研修などにおいて、法人理念を引用することで共有する取り組みを実施しています。
2. 新型コロナ対策として、日頃からの対策（標準予防策）を継続していくと共に、感染症の動向、情報の正確な把握を行います。感染発生時に備えた必要物品の整備、策定した感染症発生時のB C P（事業継続計画）の適宜の更新を行い、法人内事業所間の連携と支援体制の構築を進めます。
→ 新型コロナ対策として、検温、手指消毒等の標準予防策、必要物品の備蓄管理と必要に応じた抗原検査の実施等を行っています。また、令和4年度に感染症対策研修を実施しました。
2. 多岐にわたるハラスメントの理解とその未然防止のため、働き方や利用者、職員の多様な考え方の把握と尊重に努め、施設の取り組むべき姿勢と責務を明確化していきます。
→ 法人理念、行動指針の周知を引き続き行い、起こり得るハラスメントに対する職員の意識向上に努め、利用者や家族のハラスメントに対する理解の促進を図ります。
3. 高齢者虐待防止法、身体拘束廃止への研鑽を深め、その対策と意識向上に取り組めます。
→ 虐待防止委員会を中心に、人権意識や虐待防止に関する取り組みを継続しながら利用者の状態把握、適切な記録や支援の検討を行い、身体拘束廃止に向けた取り組みを行いました。今後も高齢者虐待や権利擁護についての研修への参加、職員への周知徹底を図り、施設として虐待防止や権利擁護の重要性の認識と具体的な実践に努めていきます。
4. 当施設が地域の福祉拠点であり、自然災害発生時に福祉インフラとなるよう認識と役割の理解を深めると共に、災害時の対応を明確にし、必要物資や機材の確保、点検を適宜行います。
→ 例年同様、防災訓練による火災発生時の対応の実践を行いました。多発する自然災害の状況を考慮し、B C Pの更新を含む起こり得る災害に備えた対応や必要物資の確保等に取り組めます。
5. 利用者の見守りと記録、職員の業務状況把握等の効率化に向けてI C Tの導入と活用を進め、介護人材の不足を補いながら、利用者が安心、安全に生活できる環境づくり、サービスの提供を継続します。
→ 日々の介護記録業務等のために、新しい介護記録ソフト「うぐいすDX（デジタルトランスフォ

ーメーション)」を導入しました。そのため、利用者の介護に関する記録等や請求事務などが効率的に行えるようになりました。家族への事務連絡にも、うぐいすDXを用いたSMSを活用し、迅速な連絡に活用しています。

[相談部門]

1. 介護保険法等、高齢者施策の動向把握に努め、利用者、家族への情報提供や相談対応、説明を充分に行います。また、入居相談に来られた相談者に対しても、もてる知見を活かし、介護への不安が軽減するよう支援を行います。
 - 家族に対して、うぐいすDXでのSMS、電話連絡、面会時の説明、書類の郵送等により、介護保険法、高齢者施策等の連絡、相談を迅速に行いました。また、入所相談に来られた介護者に対して、入所申し込みも含め、地域にある介護資源の説明など随時対応しています。
2. 施設内で起こる介護事故に対して、情報の収集と分析、関係者への連絡を速やかに行えるよう努めます。発生した事故を繰り返さないよう、各部署、家族、関係機関との調整を行います。
 - ヒヤリハット報告、再発防止に向けた支援の検討等を継続し、事故防止委員会の分析のもと、職員全体で共有しています。今後も事故防止の取り組みとして、予想されるリスクを踏まえた支援を行いながら、利用者にとって安心、安全なサービスの提供とリスクマネジメント体制作りを行います。

[介護部門]

1. 利用者が「今日も良い一日だった」と感じていただけるように、利用者個々の尊厳に配慮した関わりに努めます。また、生活の中に楽しみを作っていくように介助方法の見直しや、行事等計画していきます。
 - 利用者、家族が白梅寮を退寮される時に「いい施設だった」と実感していただけるように日々の関わりに努めています。また、利用者の状態変化に応じて介助方法を適宜見直し、安心、安全な介助方法を追求しています。行事については、新型コロナの社会的な状況をみながら実施してきました。
2. 利用者への標準化したサービス提供のために、マニュアルの整備を継続して行います。マニュアルは新人教育、外国人技能実習生への指導、自分自身の振り返りとしても使用し、職員の介護サービス内容の標準化に活用します。
 - サービスの標準化はヒューマンエラーを起こさないための取り組みであり、マニュアルに依った上で、利用者、家族の持つ個別の要望に対して応えていくことが選ばれるサービスに必要であると考えます。些細と思える要望もこぼすことのないよう、マニュアルの整備を継続して補完、整備していきます。

[医務部門]

1. 利用者健康診断の実施による、疾病の早期発見を含めた高齢化、重度化への対応に努めると共に嘱託医との連携による速やかな受診や処置の実施、家族への連絡や協力を得て、利用者の状態変化への対応を行います。
 - 健康診断をはじめ、利用者の状態把握や嘱託医との連携を継続しています。利用者の受診や入退院時には、家族への連絡はもとより、必要に応じた職員の支援等も行いました。
2. 利用者をはじめ、職員の健康管理、職場の衛生管理と保全に取り組み、各種感染症の対策を講

じることに加え、感染症流行時期には事前研修による理解と対応を徹底していきます。

→ 新型コロナを含む感染症対策として、利用者、職員共に日々の検温、適宜の手洗いや手指消毒、換気等の標準予防策を継続しています。また、利用者の受診時にはマスクの着用に加え、保護メガネや手袋の着用を行う等の感染症対策も行いました。新型コロナを含む感染症の研修も実施しています。

[調理部門]

1. 利用者、家族や各部署との連携のもと、嚥下状態や食事形態、利用者の体調、栄養状態、体重変化、嗜好等の適切な把握と低栄養状態の予防、改善を図ります。
→ 利用者の状態に応じて各部署と相談を行い、食事形態の変更等、誤嚥防止への配慮や食事の際の見守りや声かけも継続して行います。
2. 楽しい食事となるよう毎日の献立にも工夫をし、また、季節感を感じていただけるように、行事食や行事のおやつに取り組みます。
→ 利用者にも多数好評をいただいている白梅寮の食事を、現状に甘んじることなく改善していけるように、利用者懇談会などを有効に活用し、さらに充実した食の楽しみを感じていただけるよう取り組みを継続します。
3. 新型コロナ対策（手洗い、マスク、換気）の徹底と、食品の取扱いに注意し、調理場内の衛生管理と食中毒防止に努めます。
→ 食品の管理、調理における衛生管理と、新型コロナを含めた感染症の標準予防策を徹底し、厳重な衛生管理を継続して取り組みます。

[リハビリ]

1. 嘱託医の指示や各部署との連携のもと、利用者ひとりひとりの状態に合わせたリハビリ計画を作成し、その心身機能の維持、向上のためのリハビリを進めます。
→ 嘱託医の指示や、機能訓練指導員との連携のもと、利用者ひとりひとりの状態に合わせたリハビリ計画作成し、その心身機能の維持、向上のためのリハビリを継続して進めます。

●デイサービスセンター椿寿荘

通所介護

1. 在宅生活を楽しみながら過ごせるように、不安や悩みを解消できるよう寄り添い、前向きな毎日を送ることができるよう支援します。
→ 本心から語り合えるよう不安や悩みを解消できる環境を設け、信頼していただけるような関係の構築に努めました。
2. 「やりたいこと」を「出来ること」に変えることで、ご利用者が自信を持って毎日を過ごせるために思いをしっかりと聞いて適切なアドバイスをし、少しずつでも思いに近づけることができるよう取り組みます。
→ 様々な思いがある中で、一番身近で一番叶いそうなことから取り組むことができるように働きかけるよう努めました。
3. 心身機能を活かすために、ひとり一人に合う動作訓練の見極めをし、集団の中で一緒に行うことで身につけ、自宅でも行えるような覚えやすい内容のものを提供します。

→ 昔懐かしい歌に職員が考えた動作を合わせて体力の強化や柔軟な身体をつくれるよう、またシナプソロジーなどを使って認知機能の予防を行い、自宅で過ごしやすくなるように努めました。

●鶯園デイサービスセンター

通所介護

1. 日常生活動作、機能維持、認知症予防に努めます。
→ 日常生活動作を中心に利用者のできる事は声掛け、見守りで「していただく」ということを重視し機能維持に結びました。また、認知症予防のため回想法、音楽療法、個別でのレクリエーションを行い脳の活性化を図りました。
2. 利用者に添ったサービス提供をします。
→ ケアプランをもとに通所計画を作成し、個々に添ったサービス提供に努めましたが、全利用者の通所計画書を把握することができていなかったように思います。朝のミーティング時に共有するようにしていきたいと思います。
3. 個々を把握し、何が必要かを考え共有することでより良いサービスに結びます。
→ 気づいた事、問題点等のカンファレンスを行い職員全員で共有しサービスに結びました。

●鶯園ホームヘルパーステーション

訪問介護

1. お客様の立場に立ったサービスを実施します。
→ 持病や家庭環境、経済的な面等様々な困難を抱えるそれぞれの利用者に対し、思いやりを持ち理念に基づいたサービス提供が出来るよう職員同士で情報の共有、支援状況の確認を頻回に行い、目標に向かう支援を実施しました。
2. 関連事業所と連携し、チームとしての援助を行います。
→ 小さな事でも報告しあうことを周知して内部連携を図り、小さな異変にいち早く気がつけるよう日々の業務を行いました。関係機関との連絡方法にも工夫し、連絡対応が日をまたがないよう心掛けました。
3. 達成可能な計画を立て、目標を明確にしたサービスを提供します。
→ 利用者ができる、やりたいと思える計画を立てることができるよう個別にアセスメントを実施し状態の把握と気持ちの確認を行いました。前向きにそして自発的に自立に向けて歩めるように働きかけを行いました。
4. 気持ちの良い声かけや、関わり方の援助技術を高めます。
→ 「まずは笑顔で」を念頭に、来て欲しい・来てくれてうれしいと思われるような、又、今日は何を一緒に頑張ろうかと利用者職員がお互いに楽しみに思えるような日々であるように努めました。

●鶯園居宅介護支援事業所

居宅介護支援

1. 長期的なサービス計画

地域から信頼される事業所、信頼されるケアマネジャーになる

→ 本人、家族、主治医、各事業所等関係機関と連携を図り、丁寧な相談対応を心がけています。行政、地域包括支援センター、病院の医療ソーシャルワーカー等からの困難事例も受け入れています。

2. 中期的なサービス計画

ケアマネジメントのスキルアップを図り、より良いサービス提供ができる。

→ 外部研修が、コロナ禍で中止もありましたが、リモートでの研修会などに参加し、ケアマネジメントの専門知識の習得に励みました。また、相談援助技術の研修会にも積極的に参加しています。

3. 短期的なサービス計画

介護保険制度の理念に基づき自立支援のプランを作成する。

→ 利用者、家族の話をよく聞き、情報収集、アセスメントを行い、利用者の自己選択、自己決定でできるよう支援を行い、利用者の望む生活に近づくようにケアプランの作成を行っています。

令和4年度品質目標に対して

○介護保険制度の内容を熟知する

→ 津山市の集団指導や運営指導を受け、制度の内容を理解し運営減算にならないよう留意しています。

○適切なケアマネジメント手法を使いケアマネジメントを提供する

→ アセスメント力を向上させるために、丁寧に情報収集をおこない、課題を分析統合しニーズが引き出せるように努力していますが、事務処理に時間もかかり手際よく出来るようにしていきたいと思います。

○対人援助の専門職として面接技術を向上させる

→ 面接技術の向上のため、相談援助技術研修会や事例検討会等に参加し、面接技法や各種理論を理解するように努力しています。

○他職種協働のチームアプローチを身につける

→ 他職種連携を図り、ケアチームとして支援が出来るよう努力しています。

業務の効率化を図る（ICTの活用）

→ ICTの活用において、まずは機器に慣れることからはじめ、業務の効率化が図れるように努力しています。

○自然災害や感染症等、不測の状況下であっても、在宅生活が円滑に送れるよう、各サービス事業所、病院、地域等と連携を図り、丁寧かつ迅速な対応を心がける

→ BCP作成のため、研修会に参加し、事業所内でも実際に災害が起こったことを想定した机上訓練をおこなっています。

●グループホームうぐいす

認知症対応型共同生活介護

1. 法人・ホーム運営理念を理解し、自分らしい生活の継続、サービスの向上に努めます。

→ 毎月の職員ミーティングにて法人・ホーム運営理念を念頭に置き、意見交換を行い、利用者の

自分らしい安心した生活の継続に向け、具体的な支援内容を検討し、サービスの向上に努めました。

2. 新型コロナ感染症予防対策の継続、感染症委員会を開催し、感染症の発生、まん延防止について討議を行い、衛生管理に努めます。

→ 新型コロナ予防対策としては、職員体調自己チェックの徹底、抗原検査の実施、職、員・利用者のワクチン接種、基本的な感染対策（マスク着用・手洗い・消毒・換気・密回避）の徹底等行いました。感染状況に合わせて、家族面会の制限と緩和、行事内容の変更をしました。感染症委員会を開催し、具体的な予防対策について話し合いました。施設内外の研修に参加し新型コロナについて学び、また、BCP（感染症）訓練を行いました。

3. 利用者の体調管理、特変時の速やかな対応に努めます。

→ 利用者の日々の体調・状態把握に努め、特変時は嘱託医・訪問看護師・家族に相談、指示を仰ぎ対応に努めました。また、健康に留意した食事内容・量・食事形態に配慮、提供しました。

4. 穏やかに生き生きと生活をして頂くために、利用者ひとり一人に合わせた支援を行います。

→ 利用者ひとり一人の出来ることを把握し、個々に合わせた支援（お手伝い・レクリエーション）を行い、自立意識を高めて頂きながら支援に努めました。また、状態変化があればその都度支援内容を検討し、穏やかな生活を送って頂けるように支援に努めました。

5. 利用者の話に耳を傾け、お気持ちを大切に、寄り添いケアに努めます。

→ 利用者との関わりの中で、心の言葉を聞き逃さないように耳を傾け、思いを尊重し、共感・傾聴・寄り添いケアに努めました。認知症進行にて意志表示しにくい方との関わりでは、表情・仕草で思いを汲み取るように努めました。月1回のミーティング、日々の申し送り等で、ちょっとした気付きにも触れ、話し合い、情報共有に努めました。また、利用者の尊厳の保持、プライバシーの保護等、声かけに注意し支援に努めました。

●グループホーム津山

認知症対応型共同生活介護

1. 安心安全、元気で楽しく、利用者も職員も笑顔で過ごせる思いやりのあるグループホームを目指します。

→ 個々の利用者の健康状態を様観把握に努め、職員間で情報を共有し、利用者が安心して過ごせるように努めてきました。

2. 新型コロナ感染症予防対策の徹底

→ 楽しく感染予防の支援を行いました。手の洗い方（音楽に合わせて楽しみながら覚えめました。消毒1プッシュ清潔に！命を守るため、自然にマスクかけられるようになりました。引き続きマスクを致します。しっかり栄養摂取していただきました（よく食べ、よく寝て、運動を）生活様式が変わっても、これが普段の生活になるよう支援し続けます。

3. 自立支援を基本としたサービス提供を行う。心が動けば、体も動くケア！を目指します。

→ ひとり一人のレベルを見極めて、出来ることを積極的にすすめてきました。コロナ禍でも出来ることを考え、壁面飾りや物作りで達成感を味わい、歩行や体を動かすことでストレス解消していただくよう努めてきました。ここが皆様にとって居心地の良い場所になるように、利用者同志で会話ができ、又、会話が出来ない方は職員が中に入って話が出来るように支援いたしました。

事業別稼働状況

事業名	目標稼働率	稼働実績	達成率
特別養護老人ホーム鶯園	94.0%	103.1人	93.7%
特別養護老人ホーム鶯園 短期入所	80.0%	14.3人	75.0%
有料老人ホーム白梅寮	94.0%	55.7人	92.9%
軽費老人ホームサンシティーうぐいす	94.0%	46.8人	93.6%
デイサービスセンター椿寿荘	60.0%	13.4人	53.5%
鶯園デイサービスセンター	70.0%	16.5人	65.9%
鶯園ホームヘルパーステーション	80.0%	12.7人	70.4%
鶯園居宅介護支援事業所	89.0%	90.0人	85.2%
グループホームうぐいす	96.0%	17.2人	95.7%
グループホーム津山	94.0%	16.8人	93.6%
青空ワークス	60.0%	7.3人	52.0%
放課後等デイサービス Liebe	88.0%	8.4人	84.4%

【まにわ拠点】

1. 拠点 全体総括

- 法人理念、ビジョンを基に品質マネジメントシステムに関する品質方針及び品質目標を確立し、施設の状況及び戦略的な方向性を確実にします。
 - ・令和4年度の品質方針は、利用者により良いサービスの提供を行うために「接遇の改善」を設定し、各部署で品質目標を確立しました。
 - 職員一人ひとりに理念、品質目標カードを配布、周知し日々の業務を遂行しました。また、令和4年度から接遇改善委員会を設置し、施設全体の接遇、マナーの向上を目指す取り組みを実施しました。
- 利用者の健康管理の一環として、自然排便コントロールを他職種連携で実施し、維持・継続を行っています。
 - ・利用者の下剤服用を止め、腸内環境を整え自然排便を目指しています。日中はおむつを外し、パンツ（布・紙）を着用し、トイレ及びポータブルトイレで排泄を行い気持ちよく過ごして頂けるよう努めました。
- 新型コロナ対策として、日頃から対策の徹底を行い、感染症の動向や状況把握を行います。感染症発生時に備えた必要物の備蓄、BCP マニュアルの更新を行い、法人内相互による支援体制の構築を進めます。
 - ・新型コロナ対策として利用者、職員の1日2回の検温、手指消毒、定期的な換気などの標準予防策、備蓄管理、定期的な抗原検査の実施、感染症発生時に備えて医療機関、保健所との連携体制の構築を行いました。

- 当施設は地域の福祉拠点であり、自然災害の指定福祉避難所であることの認識と役割の理解を進めると共に、災害時の対応を明確なものとし、必要物資や機材の確保・点検を行います。
 - ・年2回の防災訓練による災害発生時の対応の実施を行いました。また、自然災害によるコミュニケーションの実施やBCPの更新を行い、災害に備えた対応や備蓄管理を行いました。
- 社会福祉法人として地域交流を深め地域に貢献を行います。
 - ・令和4年度は、地域交流プロジェクトチームを設立しました。真庭拠点施設のホームページをリニューアルし、地域の方々に施設を知って頂くことが出来ました。また、施設入所申し込みや職員求人、日々の活動状況をブログで発信しています。
- 業務改善、効率化に向けてICTの導入と活用を進めLIFEの対応、介護人材不足を補い、利用者に安心、安全なサービス提供を継続します。
 - ・日々の記録業務等の効率化、LIFE対応の介護ソフト導入のための準備を行いました。また、コロナ禍での家族との面会対応としてタブレットを活用することで、利用者、家族の安心感に対応することが出来ました。

●特別養護老人ホーム千寿荘

特別養護老人ホーム・地域密着型特別養護老人ホーム・短期入所生活介護

[介護部門]

1. 相手に不快な思いをさせない、気持ちの良い対応が出来る。
2. 職員の介護技術のレベルアップと思考力を養う。

令和4年度のサービス実績

- ・新型コロナの影響でイベントや散髪が行えない状況が続いた中、千寿荘の敷地内や周辺で散歩を行い、荘内で行える楽しみを工夫しました。野菜や花植など、土に触れることで昔を思い出されていきました。
- ・新型コロナ感染対応の為に職員間で他部署へ応援に行く等、他部署との連携がとれました。
- ・自然排便へ繋がるよう、個々の排泄リズムを把握するように努め調整を行いました。
- ・個別対応として、夢プランを実施し、好きな食べ物を提供させて頂きました。

[介護部門（東館）]

1. 相手に不快な思いをさせない、気持ちの良い対応が出来る。
2. 職員の介護技術のレベルアップと思考力を養う。

令和4年度のサービス実績

- ・ユニット内でご飯を炊き、盛り付けや片付けをする日常的な食事風景を大切にしました。
- ・ユニットごとに調理やお菓子作りを行い、他の利用者と一緒に会食を楽しみました。
- ・一人一人に合った食べやすい環境を整えました。
- ・マンツーマンで個々のペースに合わせゆっくりと入浴していただけるように努めました。
- ・プライバシーと尊厳の保持に配慮して、一人ひとりの排便リズムに合わせて快適な排泄を目指しました。
- ・一人ひとりの生活リズムや体調に合わせた離床を行い、心身共に健康に過ごせるよう配慮しました。

- ・ 24時間生活シートに沿った個別ケアを行いました。
- ・ 住環境を整え自分の居場所を提供しました。
- ・ 利用者の話を傾聴し、柔軟な対応を行い、安心して過ごせるよう支援しました。

[看護部門]

1. 利用者の健康管理を行い、状態の変化が見られた際には早急な対応を心掛け、病状が悪化することなく、早く生活の場へ復帰できるよう援助を行う。生活機能の低下を防ぎ、生活の質の維持向上が図れるよう援助する。

令和4年度のサービス実績

- ・ 家族への連絡を看護職員全員が密に行いました。
- ・ 利用者の体調不良時には早めに医師へ連絡、受診を行う事ができました。
- ・ 排泄・食事等、おむつ外しを通して生活機能の維持・向上が図れるよう援助しました
- ・ 利用者の体調変化を見逃さないよう、日々の状態を細やかに把握し、異常の早期発見に努めました。また、主治医とも連携を図り早期治療の提供により、ご本人へのリスクの軽減が図れるよう心掛けました。
- ・ 利用者の体調不良時、薬の処方があった場合や治癒した時には、こまめに家族への連絡を行いました。
- ・ 上記以外にも、年1回の検便・随時主治医により行われる採血検査他、胸部レントゲン健診など利用者の健康管理を行いました。
- ・ 利用者の生活の援助に携わる職員の健康管理にも心掛けてきました。
- ・ 褥瘡予防においては高反発マット・エアーマットの使用、ポジショニングの実施、創傷には密閉療法等により、褥瘡の予防・早期治癒を図りました。
- ・ 利用者への歯周病予防・誤嚥性肺炎の予防を目標に口腔ケアの充実を図り、口腔リハビリの実施により口腔機能の維持・向上に努めました。
- ・ 新型コロナ感染予防策として、利用者・職員の検温を1日2回毎日実施しました。
- ・ 全職員が行動・会食などの自粛を行い、新型コロナ感染予防策等に努めました。

[調理部門]

1. 他部署と連携し、心のふれあう美味しく安全な食事を提供する。

令和4年度のサービス実績

- ・ 行事食や季節の料理を提供し、食事で季節を感じていただけるよう心がけました。
- ・ 利用者全員が美味しく安全に食べて頂けるように、聞き取りを行い、食事提供の工夫を行いました。
- ・ 低栄養状態のリスクを改善するために、他職種共同で栄養ケアマネジメントに取り組み、一人一人の状況に応じた食事が提供できるように努めました。又、調理職員全員でミールラウンドを行い、気づきを調理業務や栄養管理に繋げました。

● 蒜山デイサービスセンター

通所介護

1. 利用者楽しく気持ちの良い一日を過ごしていただく。

令和4年度のサービス実績

- ・ 部署内で他者評価を行い、接遇・マナーが向上しました。
- ・ 利用者の満足度を図り、不快なく気持ちの良い一日を過ごすことができたと評価していただきました。

● 蒜山居宅介護支援事業所

居宅介護支援

1. フレームワークを用いて、業務上の問題点の抽出と、それを解消する取り組みを考え実践していく。
2. 接遇力と面接技術の向上に重点を置いた事業所内研修を行う。

令和4年度のサービス実績

- ・ 毎月の事業所内ミーティングで、担当ケースについての情報共有を行いました。
- ・ 事業所内で面接支援術とコミュニケーション技術の研修を行いました。
- ・ 感染症や自然災害への対応力強化のため、母体法人で行われる BCP 会議へ出席しました。真庭市主催の防災説明会へ出席しました。
- ・ 入退院時や要介護認定更新時期には、医療機関と連携をとるようにしました。
- ・ 地域との連携を図るため、蒜山地域ケア会議へ出席しました。
- ・ 虐待防止委員会へ出席しました。虐待防止研修を受けました。
- ・ 感染予防委員会へ出席しました。感染症予防対策研修を受けました。

● グループホーム蒜山

認知症対応型共同生活介護

1. 一人ひとりの尊厳を意識した支援を行う。
2. 人格を尊重し、その人らしい生活が継続されるように努める。
3. プライバシーを大切にする。
4. 傾聴の姿勢を忘れない。
5. 一人ひとりの状態を把握し、安心・安全に過ごしてもらう。

令和4年度のサービス実績

- ・ 「接遇の向上を目指す」を目標に掲げ、職員のレベルアップを図りました。
- ・ 3カ月ごとにチェック項目を出し合い接遇チェック表を作成し、毎月末に評価を行いました。
- ・ 職員全員で接遇を意識し、日々の業務にあたりました。

● グループホーム美和

認知症対応型共同生活介護

1. 毎日の生活の中で本人の「やりたいこと」「したいこと」を聞き取りながら、出来るだけ提供に努める。
2. 居室は「家」であり、室内でしたいことや、着衣等も本人の考えを尊重するように取り組む。
3. 家庭的な雰囲気の中で、個人が有する能力に応じた、ハリのある生活が送れるように努める。

4. 畑やプランターに野菜を植える・食事の準備（飯台拭き・お茶を注ぐ・配る）・廊下、ホールの掃除等 その人の出来ることをしてもらう。
5. 個々の生活歴・ライフスタイルを把握するよう努力する。

令和4年度のサービス実績

- ・介護事故0件を目指す。一年間を通して「1件」の事故があり、0件を目指すことができませんでしたが、「ヒヤリハット」を活用して、同じ事を繰り返さないように職員間で話し合いを密に持ちました。
- ・水分摂取の大切さを知り、体調管理に努めました。1日1, 500CCの水分量を目指しながら、個別の病歴による水分摂取量を確認し、かかりつけ医に相談し体調管理に努めました。

●フリーズドライ工房まにわ

就労継続支援B型事業所

1. 各種マニュアルを整備し、周知徹底する事により、円滑で整った業務遂行を行います。
 - ・緊急時対応マニュアル、虐待防止マニュアル等の各種マニュアルを作成し、運営規程に添った運営ができるように整備をおこないました。
2. 感染症への対応力の強化として感染症マニュアルを充実させます。
 - ・新型コロナ感染症の対応として、新型コロナ対応マニュアルを作成しました。
3. 必要に応じて一般就労を目標とした能力向上訓練を実施します。
 - ・ステップアップや一般就労を目標とした個々への支援を実施し、令和4年度1名の利用者がステップアップし、A型事業所を利用できるようになりました。
4. 基本的な生活リズムの獲得、金銭管理や余暇の過ごし方などの助言・サポートを行い、安定した日常生活を送れるように支援します。
 - ・個別の面談、相談支援をおこない、個々の状況に応じた日常生活支援を行いました。

事業別稼働状況

事業名	目標稼働率	稼働実績	達成率
特別養護老人ホーム千寿荘	94.0%	47.0人	93.7%
特別養護老人ホーム千寿荘 短期入所	70.0%	5.1人	56.2%
特別養護老人ホーム千寿荘（東館）	95.0%	18.9人	94.1%
蒜山デイサービスセンター	70.0%	13.9人	55.5%
蒜山居宅介護支援事業所	94.0%	48.0人	90.3%
グループホーム蒜山	89.0%	90.0人	85.2%
グループホーム美和	96.0%	17.2人	95.7%
フリーズドライ工房まにわ	50.0%	7.2人	36.1%

【神戸事業部】介護・保育

●ロングステージ灘

●大石高齢者介護支援センター

1. 拠点 全体総括

令和4年度においても引き続き社会全体が所謂コロナ渦にあり、当拠点の経営、事業運営にも多大な影響を及ぼした一年でした。当拠点においても、入所系サービスにおいて新型コロナの感染拡大が2度発生し、困難な運営を強いられる事態となりました。

また、介護中の重大事故も発生し、介護機器の適切な取り扱いや定期的なメンテナンスの重要性を痛感することとなりました。

新型コロナに配慮しながらも、職員研修の機会を増加させることが出来ました。重点課題である重度化対応についても、徐々に職員周知が進んでいるように見受けられます。

職員の定着状況は昨年度に比して大きく悪化しました。退職理由は様々ですが、「職員の処遇改善」「職員教育」「チーム作り」が重要な課題であることは変わりないと考えます。また、職員の新規採用の環境は昨年度に比して悪化しており、退職者に対する職員補充に苦慮する一年となりました。

次年度以降も安定的な収入（稼働率）の維持、職員の定着・育成、職場環境の整備、災害時等での事業継続システムの構築などを念頭に拠点経営・運営を実施します。

3. 事業別稼働状況

事業名	目標稼働率	稼働実績	達成率
特別養護老人ホーム	96.0%	95.4%	99.4%
ショートステイサービス	93.3%	91.0%	97.5%
デイサービス	28.0人	24.9人	88.9%
地域包括支援センター 予防プラン	400件	409.5件	102.4%
居宅介護支援 給付管理数	70件	77.8件	111.1%

●ロングステージKOBEO岡本

1. 拠点 全体総括

令和4年度も、新型コロナ対応に追われました。感染対策に留意し運営しましたが、昨年と同時期にクラスター発生。しかし、前年度の経験を踏まえ感染拡大を防ぐことができました。稼働状況は、特養・短期は上半期、前度末からのクラスターの影響で低迷しました。下半期は特養・短期は概ね目標通りの稼働を維持できるようになりました。一方、通所は依然厳しい状況が続いています。次年度、引き続き感染症予防対策を継続しながら、特養・短期は高稼働の維持、通所は利用者回復を重点的に取り組みます。

職員の採用・定着は、年間通じて厳しい状況で必要数を確保できない状態が続きました。その中でも、OJT担当者の他施設交換研修や新入職員への振り返り研修を実施して、職員定着に努めました。また、令和5年4月から、外国人労働者（特定技能）を採用し、本格的に受け入れ開始す

る準備を進めました。

入所者にとって「安心して暮らせる施設」、職員にとって「働きやすい施設」を実現するために、研修の開催や会議を行いました。また、主任・副主任の職務を明確にし、指揮命令系統を整えると共に、写真や動画の記録への活用、インカムの導入などを通じて、情報を共有しチームで取り組める体制作りを行いました。来期は、稼働を安定させると共に、チーム力を育成し、入所者へのケアを充実と、職員の採用教育定着に取り組めます。

3. 事業別稼働状況

事業名	目標稼働率	稼働実績	達成率
特別養護老人ホーム	96.0%	92.6%	96.5%
ショートステイサービス	93.0%	88.5%	95.2%
デイサービス	25.0人	22.0人	88.0%

●ロングステージ御影

●グループホーム御影

1. 拠点 全体総括

令和4年度の上半期の稼働率は順調に向上していましたが、1月以降は新型コロナが感染拡大してしまい退所者の増加、入所の停滞により稼働率が大きく低下しました。しかし1年を通してみると地域のニーズに早期に対応することで稼働の向上に一定の効果が得られました。

施設外との交流や生活の楽しみの工夫につきましては、地域のだんじり祭りの復活、また施設内での夏祭り風おやつレクリエーションなどの工夫をしました。また屋上菜園の芋掘りでは併設の保育園児に芋を掘ってもらい、後日お互いに距離を保ちながら保育園児と入居者と一緒に焼き芋を楽しむことができました。

職員研修では、中途採用者への新人研修を充実させました。また中堅職員へもロングステージ全体研修などへの参加を促してきました。しかし人員不足から、参加の機会は最低限のものでありモチベーションのアップには到達していないため、今後もさらに職員の学びの場、成長の場づくりをしていきたいと思えます。

またケアについては、今期目標にあげていた看取りケアの充実を図ることができました。コロナ禍でご家族様との情報交換の機会の減少などから課題は多くありましたが、多職種協働で取り組み、体制を整えることで、看取り加算の取得にもつなげることができました。今後も感染予防に留意しながらケアの充実を図り、安定したケア、経営につなげたいと思えます。

3. 事業別稼働状況

事業名	目標稼働率	稼働実績	達成率
特別養護老人ホーム	95.0%	93.2%	98.1%
ショートステイサービス	90.0%	94.7%	105.2%

特養＋ショートステイ	95.0%	93.3%	98.2%
グループホーム	90.0%	86.6%	96.2%

● ロングステージ KOBE 大石

● ケアハウスロングステージ KOBE 大石

1. 拠点 全体総括

今年度も新型コロナの流行が続いたため、施設内で入居者や職員が感染してしまい、その対応に追われた時期が数回ありました。幸い大きなクラスターとなることはなく終息させることができましたが、その間職員に大きな負担がかかってしまうことやショートステイの利用抑制による稼働率低下など運営面にも多大な影響を被りました。そのような中、今年度は「安心・安全なサービスの継続的な提供」、「職員の定着と育成による安定的な勤務体制の維持」、「稼働率の上昇と支出の削減による収支状況の改善」の3点を重点目標として1年間事業活動を行いました。

まず、安心・安全なサービスの提供については、介護技術の研修は感染予防のため実施できませんでしたが、事故防止において、委員会で研修を実施したり服薬マニュアルを見直したりすることで事故の件数を減らすことができました。認知症ケアについて虐待防止研修のテーマとして取り上げられたので理解を深める機会になりましたが、まだまだ対応力が不足している職員が多く今後も研修等を通じレベルアップさせていきたいと思えます。重度化への対応として退所者のうち7割以上の方が看取り介護の対象となりました。これからも看取りのニーズは高まると思えますので、その都度の反省を生かし質の向上を目指して努力を続けたいと思えます。

職員の定着については、新しい職員の受入れやそれぞれに合わせたペースで丁寧に指導を行う意識が施設全体に浸透してきたため、早期離職者はほとんどなくなりました。そのため年度の前半は退職者もなく安定した勤務体制を維持できていましたが、年末に各階に退職者が出たため、採用が遅れた階については時間外勤務が増えるなど厳しい体制となってしまいました。育成については次のリーダー層を育てるため他の拠点とも合同で研修を継続しています。引き続き幹部職員が意識を共有して粘り強く取り組んでいきたいと思えます。

収支状況の改善については、各事業とも稼働率の目標を下回ったため残念ながら前年度から後退してしまいました。特養は夏以降退所者が続いた際に待機者がなく、常に2～3床空いている状態が長く続いたことが稼働率低下の原因です。申込者自体が少なく入居候補者が限られるため、申込みを増やすことから取り組む必要があります。これまでの方法だけでなく、居宅との連携の一層の強化やケアハウスで利用している紹介会社の活用など方策を検討していきたいと思えます。ショートステイは新型コロナの感染予防のため、特養の空床を使えなかったり施設側から体調不良の方の受入れを断ったりしたため、特養のカバーまでには至りませんでした。ケアハウスは近年紹介会社を経由する方が増え、入居時に紹介料が掛かるとはいえ入居者の確保は進むようになりました。今年度は例年に比べ退所者が多かったため稼働率が伸び悩みましたが、次年度は必ず目標を達成したいと思えます。また、今年度は光熱費の高騰を始めとして価格が上昇した物品も多く、補助金による補填はあったものの収支を圧迫する要因となりました。次年度は各事業とも稼働率の目標の達成により適正な収益が確保できるように努めたいと思えます。

3. 事業別稼働状況

事業名	目標稼働率	稼働実績	達成率
特別養護老人ホーム	95.0%	87.1%	91.7%
ショートステイサービス	95.0%	93.6%	98.5%
特養+ショートステイ	95.0%	88.8%	93.5%
ケアハウス	60.0%	56.6%	94.3%

● 灘在宅福祉センター

1. 拠点 全体総括

デイサービスは、新型コロナウイルスの感染防止対策の徹底によりクラスターの発生はありませんでしたが、大雪の影響で1日営業中止しました。運営は『経営改善計画』に沿って行い、目標は達成され稼働は順調に伸びました。また、中重度者ケア体制加算を算定できる月もあり、報酬が増えました。人件費率も派遣費の減少により、前年より大幅に改善されました(82%⇒65%)。よって収支差額が大きく増加しました。職員の配置は稼働に見合った体制を維持しつつ、必要な補充は逐一行うことを今後も継続します。

居宅介護支援は職員の入替りがなく、運営は安定しました。プラン担当依頼も多く、プラン数が順調に増加しました。

地域包括支援センターは職員の入替りが年度の後半に続き、特に経験年数の長い職員の退職はセンターの運営自体に大きな影響を与えました。次年度は新しい職員体制で、相談対応のスキルを上げながら、出来るところから堅実に業務を遂行します。

全体としては、新型コロナウイルスの類型の移行により新たな局面を迎えますが、引続き感染症防止対策に努め、地に足の着いた、着実な運営をしていきます。

3. 事業別稼働状況

事業名	目標稼働率	稼働実績	達成率
デイサービス	23.5人	23.1人	98%
地域包括支援センター 予防プラン	220件	239件	109%
居宅介護支援 給付管理数	120件	110.3件	92%

● 認定こども園 魚崎COCORO

I 教育保育について (全体総括)

一年間、教育保育理念に基づき業務を進めた。入園児から5歳児卒園まで一人ひとりの子どもと家族の思いを尊重し、安心できる保育と安全な保育環境を提供することができました。

養護と教育については年度当初の計画通りほぼ順調に活動を行うことができました。

地域の子育て支援にも力を入れ電話による子育て家庭への相談など積極的に行ったり未入園児親子が集う場の提供に努めました。

II 入園児構成（令和5年3月31日現在）定員数135人

年齢（クラス名）	児童数（定員）	入園児童数
0歳児（ぽかぽかえがおぐみ）	15名	6名
1歳児（すくすくえがおぐみ）	21名	26名
2歳児（わくわくえがおぐみ）	21名	26名
3歳児（のびのびえがおぐみ）	21名	30名
4歳児（にこにこえがいくみ）	21名	31名
5歳児（きらきらえがおぐみ）	21名	30名
小計	120名	133名
3～5歳児 1号認定	15名	14名
合計	135名	147名

●認定こども園 六甲道COCORO

I 教育保育について（全体総括）

1年間、教育保育理念に基づき業務を進めました。

新しい児童の入園から5歳児の卒園まで一人一人の子どもと家族の思いを尊重し、安心できる保育環境を提供しました。

養護と教育については年度当初の計画通りほぼ順調に活動を行うことができました。

新型コロナの感染拡大に対し、職員一丸となって換気やこまめな消毒など感染防止に取り組み、衛生環境を整えると共に、保護者に必要な情報を伝えるなど丁寧な対応を行いました。

繰り返しまん延防止等重点措置が実施される中、園行事について変更せざるを得なくなりましたが、保護者の理解をいただきました。

また、地域の子育て家庭への広場事業「こころんはあと」は、園内で月に1回行い好評でした。

II 入園児構成（令和5年3月31日現在）定員数60人

年齢（クラス名）	児童数（定数）	入園児童数
0歳児（ぽかぽかえがおぐみ）	6名	6名
1歳児（すくすくえがおぐみ）	11名	9名
2歳児（わくわくえがおぐみ）	11名	12名
3歳児（のびのびえがおぐみ）	11名	12名
4歳児（にこにこえがいくみ）	11名	13名

5歳児（きらきらえがおぐみ）	11名	12名
合計	60名	64名

- ・一時保育事業：一年間で延べ96名の受け入れを行いました。
- ・KOBÉはじめルーム：申し込みはありませんでした。

●石屋川COCORO保育園

I 教育保育について（全体総括）

令和4年度は、教育保育理念に基づき業務を進め、一人ひとりの子どもと家族の思いを尊重し、安心できる保育と保育環境を提供することができました。

新型コロナ感染が全国的に拡大し感染予防対策を強化し、神戸市の感染予防対策に従って保育を実施することができました。一部行事の変更もありましたが、保護者に丁寧に説明し理解を得ることができました。

養護と教育については、安心安全な保育と保護者のニーズを把握する努力、地域の特性を考慮し未入園児をもつ親子に育児相談の場を設けました。子育て広場は感染状況を考慮して、中止する月もありましたが、小人数で開催できた月もあり育児相談は好評でした。

II 入園児構成（令和5年3月31日現在）定員数60名

年齢（クラス名）	児童数（定員）	入園児童数
0歳児（ぽかぽかえがおぐみ）	6名	6名
1歳児（すくすくえがおぐみ）	7名	12名
2歳児（わくわくえがおぐみ）	8名	12名
3歳児（のびのびえがおぐみ）	13名	13名
4歳児（にこにこえがいくみ）	13名	11名
5歳児（きらきらえがおぐみ）	13名	9名
合計	60名	63名

●御影COCORO保育園

I 教育保育について（全体総括）

1年間、教育保育理念に基づき業務を進めました。

新しい児童の入園から5歳児の卒園まで一人ひとりの子どもと家族の思いを尊重し安心できる保育と安全な保育環境を提供するよう努めました。しかし、保護者との安定した繋がりを持つことの難しさを感じる事が多く、丁寧にかかわることの大切さを実感しました。

また、食育については、和食を中心としたメニューを取り入れ、食材に慣れ親しみ自ら食べる意欲を持てるように取り組みました。

養護と教育については年度当初の計画通りにほぼ実施することができました。

新型コロナの感染拡大により、園児、保護者、職員が感染者や濃厚接触者となり自宅待機を余儀なくされることが増えてきましたが、園では職員一丸となって換気やこまめな消毒、登降園の玄関対応など感染防止にとりくみました。

繰り返しまん延防止等重点措置が実施される中、保護者参加行事について、日程変更、中止をも考慮しながらの実施となりましたが、保護者の理解と協力を得て子どもたちの成長を伝えることができました。

II 入園児構成（令和5年3月31日現在）定員数45人

年齢（クラス名）	児童数（定数）	入園児童数
0歳児（ぼかぼかえがおぐみ）	5名	6名
1歳児（すくすくえがおぐみ）	11名	10名
2歳児（わくわくえがおぐみ）	11名	11名
3歳児（のびのびえがおぐみ）	9名	9名
4歳児（にこにこえがいくみ）	9名	4名
5歳児（きらきらえがおぐみ）	9名	9名
合計	45名	49名

- ・一時保育事業：年間 延べ 60名の受け入れを行いました。
- ・休日保育事業：年間 延べ474名

旧千寿福祉会

【みすず拠点】（湯郷含む）

●みすず荘

障がい者支援施設（施設入所支援・生活介護）、短期入所、日中一時支援

【障がい者支援施設（生活介護、施設入所支援）】

[全体]

1. 法人理念、MIND、職務行動指針は、事業運営とサービス提供上の中核となり、施設、職員が同じ方向性を保つために重要なものとなります。職員への説明や月間目標への引用等による浸透を図り、意識向上のもと業務に取り組める環境づくりを行います。
→ 利用者により良いサービスの提供を行うために重要となる理念、行動指針等については、施設内での掲示や説明による職員への周知を行っています。また、引き続き職員の月間目標に理念等を引用することで、日々の業務において大切にすべきことを共有する取り組みを実施しています。
2. 新型コロナ対策として、日頃からの対策徹底を継続すると共に、感染症の動向、情報の正確な把握を行います。感染症発生時に備えた必要物品の整備、策定した感染症対応BCP（事業継続計画）の適宜更新を行い、法人内相互による支援体制の構築を進めます。

→ 新型コロナ対策として、検温、手指消毒等の標準予防策、必要物品の備蓄管理と必要に応じた抗原検査等を実施しました。また、感染症対応BCPの更新も行っています。

3. 多岐にわたるハラスメントの理解とその未然防止のため、働き方や利用者、職員の多様な考え方の把握と尊重に努め、施設の取り組むべき姿勢と責務を明確化していきます。

→ ハラスメントに関する相談窓口を設置しています。引き続き、起こり得るハラスメントに対する職員の意識向上をはじめ、利用者や家族の理解の促進を図ります。

4. 障害者虐待防止、身体拘束廃止への研鑽を深め、その対策と意識向上に取り組みます。

→ 虐待防止委員会を中心に、人権意識や虐待防止に関する取り組みを継続しながら、利用者の状態把握、適切な記録や支援の検討を行い、身体拘束廃止に向けた取り組みも行いました。今後も障害者虐待や権利擁護についての研修への参加、職員への周知徹底を図り、施設として虐待防止や権利擁護の重要性の認識と具体的実践に努めていきます。

5. 当施設が地域の福祉拠点であり、自然災害時の指定福祉避難所であることの認識と役割の理解を深めると共に、災害時の対応を明確なものとし、必要物資や器材の確保、点検を行います。

→ 例年同様、防災訓練による火災発生時の対応の実践を行いました。多発する自然災害の状況を考慮し、BCPの更新を含む起こりうる災害に備えた対応や必要物資の確保等に取り組みます。

6. 利用者の見守りと記録、職員の業務状況把握等の効率化に向けてICTの導入と活用を進め、介護人材不足を補いながら、利用者が過ごしやすい環境と安心、安全なサービス提供を継続します。

→ 利用者や支援に関する記録等の効率向上とデータ化を進めるために導入済みのタブレット端末とアプリケーションは、その活用の幅を広げる等を含めて職員に浸透してきています。また、タブレット端末(SNS)を活用し、利用者の近況を家族に伝える等、コロナ禍で会うことが困難な状況でも安心していただけるように対応しました。

[介護部門]

1. 利用者への標準化したサービス提供のために、マニュアルの整備を継続して行います。マニュアルは新人教育や自分自身の振り返りとしても使用し、適宜見直しを行いながら適切なサービス提供に努めます。

→ 新人職員が業務を覚えていく際、また中堅職員が業務の振り返りに活用する手順書の整備を継続しています。今後も生活支援員への周知、利用者への標準化したサービスの提供に努めます。

2. 利用者ひとりひとりの心身状況や背景、思いを十分に理解しながら、日々の業務の適切な改善や各部署との連携を図り、今必要とされる支援や利用者の笑顔につながる支援を実施します。

→ 利用者の医療的ケアや意思疎通、思いを聴き取ることの重要性を改めて認識しました。今後もひとりひとりの利用者の多様な考え方や希望を大切に、各部署連携のもと、相談、検討を行います。また、利用者との関わりの中で日々の気づきを大切に、その都度改善を図るよう努めながら、利用者が楽しみ、笑顔になれる支援を継続します。

[看護部門]

1. 利用者健康診断の実施による、疾病の早期発見を含めた高齢化、重度化への対応に努めると共に、嘱託医との連携による速やかな受診や処置の実施、家族への連絡や協力を得て、利用者の状態変化への対応を行います。

→ 健康診断をはじめ、利用者の状態把握や嘱託医との連携を継続しています。利用者の入院時に

は、家族への連絡等のもとより、必要に応じた職員による支援等も行いました。

2. 利用者はもちろん、職員の健康管理、職場の衛生管理と保全にも取り組み、各種感染症対策を講じることに加え、感染症流行時期には事前研修による理解、対応を徹底していきます。

→ 新型コロナを含む感染症対策として、利用者、職員共に日々の検温、適宜の手洗いや手指消毒、換気を継続しています。また、利用者の受診時にはマスク着用に加え、保護メガネや手袋の着用を行う等の感染症対策も行いました。

3. 歯科衛生士を中心とした利用者の口腔ケアについては、協力歯科医療機関との連携や生活支援員等への伝達を継続し、利用者の口腔衛生の維持、増進に努めます。

→ 歯科衛生士と協力歯科医療機関による利用者の口腔状態の把握、定期受診や部署間協働による利用者の口腔ケアを行いました。口腔ケアは、口腔、嚥下状態の維持、改善に加え、食事をおいしく摂取できることを意識しながら、引き続きケアを提供していきます。

[調理部門]

1. 盛り付けの工夫や衛生管理への配慮等のもと、クックチルによる食事提供を行いながら、引き続き利用者からの食事やおやつに関する希望の聴き取りを実施します。

→ 適切な衛生管理、適温調整等を行いながら日々食事を提供しています。また、嗜好調査、給食会議等で利用者から意見や要望の聴き取りを行いながら、可能な範囲で献立に反映する工夫に取り組みました。

2. 利用者、家族や各部署と連携のもと、嚥下状態や食事形態はもとより、利用者の体調、栄養状態、体重変化、嗜好等の適切な把握と低栄養状態の予防、改善を図ります。

→ 利用者の状態に応じて各部署と相談を行い、栄養補助食品や嗜好品の提供による栄養状態の維持、食事形態の変更等の誤嚥防止への配慮や食事の際の見守りや声掛けを継続して実施しました。

[リハビリ部門]

1. 嘱託医の指示や各部署との連携のもと、利用者ひとりひとりの状態に合わせたリハビリ計画を作成し、その心身機能の維持、向上のためのリハビリを進めます。

→ 嘱託医の指示のもと、カンファレンスを含めた部署間協働によるリハビリを提供しました。また、利用者の心身状況に合わせた運動や活動の提案、リハビリ内容の調整を行いました。

2. 利用者の状態や個性、ニーズを理解すると共に、その自主性に働きかけ、リハビリの自己選択や達成感を得ることができる取り組みを実施します。

→ 自主訓練の管理ができる利用者には、身体状況に合わせた訓練が日常的に実施できるように生活リハビリや訓練方法を伝達し、内容に応じて器具の貸し出しも行いました。

[相談部門]

1. 障害者総合支援法等、障害者施策の動向把握に努め、利用者、家族への情報提供や相談対応、説明を充分に行います。

→ 電話連絡、郵送を主な手段とし、障害福祉サービス、行政手続きや利用者の生活に関する説明を行いました。またオンライン面会時を含め、利用者や家族の相談等に随時対応しています。

2. インシデントの収集、分析をはじめとするリスクマネジメント体制の点検、構築を行います。

→ ヒヤリハット報告、再発防止に向けた支援の検討等を継続し、職員全体で共有しています。今後も事故防止の取り組みとして、予想されるリスクを踏まえた支援を行いながら、利用者にとって

安心、安全なサービスの提供とリスクマネジメント体制作りを行います。

【通所生活介護、短期入所、日中一時支援】

1. 利用者、家族のニーズを把握すると共に、相談支援事業所からの相談、連絡に適切に対応します。
→ 感染症対策を徹底しながら、相談支援事業所や家族との連携、サービスの利用支援等を継続しました。今後も利用者のニーズ等に応じた支援の実施に努めます。
2. 利用者の地域生活支援のためにも、その希望を十分に聴き取り、障害特性や生活状況等に応じたサービスの提供、環境調整を行います。
→ 利用者の在宅生活を支えるため、希望する支援方法や利用時の過ごし方等の聴き取りを行い、医療的ケアが必要な利用者への対応も含めた、利用者が安心して利用できる環境づくりに取り組みました。

●ホワイト

就労継続支援B型

1. 平均工賃額に応じた報酬体系が令和3年4月より施行されており、当事業所は平均工賃月額を基礎にした報酬体系を選択しています。よって、令和4年度は目標工賃月平均額 29,000 円と設定し、前年度よりも多く利用者に工賃をお渡しできるように生産活動の収入増加を目指します。
→ 令和4年度のホワイトの目標工賃月額の 29,000 円を超えて、29,064 円支給することができました。コロナ禍の中、一部内職などの受注減少はありましたが、生産活動収益の根幹をなすクリーニング事業の収入が安定的に維持できたことで、令和4年度の目標工賃平均額を達成することができました。
2. 感染症や災害への対応力の強化として事業継続計画（BCP）について拠点内の事業所間で見直しを行います。感染症や災害発生時における利用者や職員・地域避難者の安全を守り、発生後も途切れることなくサービスを安定的に提供する体制を確保することを目指します。
→ 新型コロナウイルス感染症の対応として、事業継続計画(感染症)を作成しました。
3. 支援の継続を見据えた障害福祉現場におけるICTの活用をします。運営基準や報酬算定上必要となる会議等について、テレビ電話等を用いた対応を可能とするような整備を行います。
→ ホワイトの事務所・作業所にWI-FI機器を設置しました。又、ZOOMを使用した会議が円滑に行けるような環境を整えました。
4. 障害者虐待防止の更なる推進、身体拘束等の適正化の推進、ハラスメントの防止などを行います。各防止委員会の設置、各研修の施行等適正化のための仕組みを整備します。
→ 虐待防止や身体拘束などハラスメント研修を行いました。又、接遇や様々な障害への理解など研修の強化に努めています。

●神南備園

生活介護、共生型通所介護、日中一時支援

1. 令和4年度は職員・利用者の体調管理、送迎時の車内での感染予防など、新型コロナウイルスの発生を予防できる施設運営を今まで以上におこないます。
→ 令和4年度の新型コロナウイルスの発生は6件6名でした。感染予防の効果があつたのかクラスター感

染等 2 次感染は発生せず休館対応も最小限にすることができたため、入浴等で困られる利用者の休館しないでほしいとの要望に応えることができています。

2. 令和 3 年度の津山市公の施設の指定管理者監査での指摘のあった事項については、条例・規則、協定書等に即して改めていきます。神南備園第 2 棟においては、必要な消防設備・届出等行っています。

→ 神南備園第 2 棟の消防設備・計画等の届出は、令和 4 年 3 月に津山圏域消防組合の検査承認を受けています。

3. 指定管理の期間が令和 4 年度末までとなっているため、更新に向けて準備をおこなっていきます。

→ 令和 5 年度～令和 10 年度の期間で社会福祉法人鶯園として指定管理を更新しております。

4. ランニングコスト削減のため、津山市と協議の上、LED 蛍光灯への入替工事をおこなっていきます。また令和 3 年度実施した利用者アンケートの結果、入浴給湯設備の温度が安定しないとの意見があったため、修繕をおこないます。

→ 令和 4 年度は、蛍光灯の LED 化・給湯設備の修繕は実施できていません。津山市の備品車両 1 台が経年劣化（走行距離・年式ともに）もあり、修繕費が年間 443,770 円掛かっています。今後は、さらに修繕箇所が増えてくることも予想されるため、車両の入替が必要となっています。修繕中に車両が使用できない場合、利用者送迎等の事業所運営に支障をきたすため、早急な対応が必要です。また、合併浄化槽の機器が漏電故障した場合に、現状では全ての機器が運転不可能な状況になる仕様となっています。障害がある利用者が利用される施設であり、排水できない状況等になれば、入浴等で支障をきたす状況になります。故障時に他の機器への影響を最小限に抑えるために制御盤内の取替整備が必要となっています。施設の老朽化に伴い修繕が必要な箇所が増えてきている状況です。

●神南備園

計画相談支援、障害児相談支援

1. 家族支援、障害児相談支援が増えています。対象者（児）の問題以外に、家族の苦悩をよく聞き、専門的な知識だけでなく共感や聞く力の人間力をもって支援していきます。また、専門機関とのネットワーク作りに努めます。

→ 計画相談の依頼は断っていません。報酬算定月以外の月に対応することも多々ありました。また受け入れができずサービス利用ができない人もいます。その家族とは週 1 回会って話を聞いています。

2. 計画相談従事者の研修は困難事例など事例案件の多様化、複雑化などより相談従事者に求められ知識も多様化しています。行動障害、医療的ケア児、精神障害者などの研修に引き続き参加します。

→ 困難事例は解決が難しく視野も狭くなりがちです。なので、相談支援部会の事例検討会に事例を提出し違う視点を持つこともありました。事業所内では、週に 1 回情報共有をしています。自立支援協議会の研修にも積極的に参加、専門知識の習得に努めています。最新の情報を取り入れるためにオンライン研修会にも参加しています。

3. コロナ渦に伴い利用者、事業者と直接会わずしての担当者会議もオンラインで可能となりました。ZOOMの利用や外出先でタブレットを使用しての承認などテクノロジーを活用していきます。

→ コロナが落ち着きオンラインでの会議はありませんでした。ただ、テクノロジーの活用は業務負担軽減になるので活用していきます。

●姫山の里

共同生活援助

1. 令和3年の障害福祉サービス等報酬改定から、グループホームにおける重度化・高齢化に対応したことへの報酬評価が行われています。強度行動障害を有する者や医療的ケアが必要な者に対する支援の評価等が見直されています。当事業所でも行動障害や高齢化にも対応するため、強度行動障害支援者養成研修（実践研修）の研修は積極的参加します。

→ 新型コロナ渦により研修が限られ、参加できませんでしたが、今後も様々な障害をお持ちの利用者に対応できるよう外部研修、内部研修の参加を進めていきます。

2. 各ユニットに利用者の安全・安心の維持・強化や業務軽減、又、感染症対策などへ対応するため情報の連絡ツールとしてテレビ会議、ICT化を検討します。

→ グループホーム瓜生原のWI-FI整備は行えました。他のユニットのよりそい津山口や姫山の里（下高倉）もWI-FI整備を進めていきます。

3. 日常や体調不良時などの記録を整備し、過去から現在に渡る利用者の状態把握に努め、個別支援計画の作成・実施・見直しに反映させます。

→ 個人それぞれの障害特性に配慮し、個別支援計画を作成しました。又、本人の精神状況や健康面の把握のため朝礼に参加して頂き、1日の流れにメリハリがでるように配慮しました。

4. 利用者の食生活に気を配り、適切な栄養状態を維持出来るように見守ります。また、助言や手伝いが必要な場合はそれを行います。更に、食生活改善に向けての具体的な取り組みを展開します。

→ 希望のある利用者には夕食を食材実費だけ頂き提供しました。偏食傾向のある利用者にもバランスのとれた食事を摂取していただけるようにメニューを配慮しました。

●グループホームみすず

認知症対応型共同生活介護

1. 事業所内での虐待の防止や身体拘束がない介護に取り組みます。

・虐待防止に関する研修や身体拘束に関する研修を計画し行います。

→自己チェックシートや資料を利用し研修が行えました。

2. 優しい暖かい等の印象を持っていただける接遇を目指す為に接遇の改善に取り組みます。

・接遇(利用者への接し方)に関する研修やコミュニケーション(利用者・職員間)に関する研修を計画し行います。又、禁句集やマニュアル等を職員間で見直します。

→禁句集を作成しました。マニュアルを確認し更新する事が出来ました。

3. 利用者が快適に日常生活を送れるよう施設内外の整備を行います。

- ・外で安心して、日向ぼっこやレクリエーションが行えるよう施設周辺を整備します。
- 施設周辺の木の伐採や草刈りなど、施設周辺の整備を適宜行いました。
- ・利用者、職員の安全を守るため防犯カメラの設置を検討していきます。
- 防犯カメラの設置は、令和4年度に行えなかったので令和5年度設置の予定です。

●デイサービスセンター湯郷

通所介護、介護予防通所サービス、基準該当障害福祉サービス

1. 法人理念、MIND、職務行動指針を理解し実践するための具体的な取り組み通して、サービスの質の向上を目指します。
 - オンライン動画研修にて、職員の職種に合った研修を実施し、サービスの質の向上に努めました。
2. 新型コロナ予防対策を徹底し、継続して行います。自施設での感染発生状況に留まらず、法人内の他事業所との連携も含めて情報を共有し、相互に応援できる体制を整えます。
 - 法人の指針を基に対策を行い、検温、手洗い、消毒、換気を徹底して行いました。建物内、備品、送迎車など手に触れる所は念入りに消毒を実施しています。近隣施設とも情報の共有、情報交換を行い、感染拡大防止に努めました。
 - 11月に職員間、利用者間での感染がありました。休業し館内の消毒を行いました。休憩時の過ごし方を見直し、昼食時の休憩室の換気、パーティション設置場所の変更、可能な限り個別での休憩を行いました。
3. 入浴設備の整備を検討し、利用者が安心・安全に入浴していただだけ、転倒、事故のリスクを軽減でき、職員の負担軽減（窓の増設等）が図れるよう計画していきます。
 - 6月に窓の増設を行いました。職員の負担が減り、利用者がより気持ち良く入浴できる支援ができました。
4. 利用者が安心して安全に送迎業務が遂行できるよう、老朽化した車両の買換えを計画的に行います。
 - 今年度は車両2台を買い換えましました。今迄以上に安心、安全に送迎が出来る様になりました。
5. 稼働率向上のため、地域の居宅介護事業所および関係機関への営業活動を継続します。
 - 稼働を上げる為に何が現状不足しているのか、事業所訪問時等に尋ねたり、空き情報を伝えながら声を掛けて頂ける様に営業活動を行いました。
6. 地域社会のニーズに応えるため、多様な事業運営形態を検討し、実施します。
 - 地域社会のニーズや動向など知るために、勝英地域自立支援協議会などに参加しました。

●グループホーム湯郷

認知症対応型共同生活介護

1. 法人理念、MIND、職務行動指針を理解し実践するための具体的な取り組み通して、サービスの質の向上を目指します。
 - 毎月の職員会議で、「職務行動指針」の複数項目を取り上げ、実際のサービス場面であった事例

に照らし合わせる検討会を行いました。また、チーム内少人数での話し合いや OJT の場面で「MIND」を意識し、価値観の共有に役立てました。

2. 新型コロナ予防対策を徹底し、継続して行います。自施設での感染発生状況に留まらず、法人内の他事業所との連携も含めて情報を共有し、相互に応援できる体制を整えます。

→ 基本的な感染防止対策を実施しました。しかしながら、令和5年1月3日、勤務職員の発症を皮切りに、ご利用者、職員合わせて13名の集団感染が発生しました。同年1月6日に、美作保健所勝英支所から指導を受け、感染拡大防止策を行いました。その結果、1月27日に解除する事ができました。今回の対応を教訓として、今後の感染症対策実施に努めていきます。

3. 認知症介護のプロとして、認知症に関する知識と技術の研鑽に努めます。

→ オンライン動画研修システム「ジョブメドレーアカデミー」を導入した研修を行いました。同システムは、職員一人一人の動画視聴進行状況の確認と、小テストと感想自由記入による、理解度の確認が行える点に優れています。研修項目もキャリア、職種に合わせてカスタマイズできるので、職員個々のレベルに合わせた研修が行えました。

4. 家族との連絡を密に行い、信頼関係をより一層深めます。

→ コロナ感染状況に合わせて、電話連絡や面会規制の緩和など行いました。各ご家族のご理解ご協力いただきました。

5. 空床期間の減少に努め、年間稼働率 90%を目指します。

→ 法人本部担当理事からの指導、デイサービスセンター管理者を含む拠点内の「管理者連絡会」の実施、各機関への空床状況 FAX 連絡、地域居宅介護支援事業所ケアマネージャーの個別アプローチ等を実施し、空床を埋めることに努力しました。その結果、稼働率 95%を達成できました。

●みすず荘人材育成事業

1. 日本語教育は業務や介護福祉に関するものに留まらず、日常生活やコミュニケーションを含めた幅広い内容に取り組みます。また、介護福祉士資格取得を見据え、より専門的、実践的な内容の習得ができる環境、時間の確保に努めます。

→ 日本語教育は利用者や職員とのコミュニケーションを含め、外部講師による講義や課題への取り組みの確保による能力向上を図っています。また、業務を振り返る時間をつくることで、専門用語の習得ができる機会を適宜設けました。

2. 介護福祉士資格取得に向けては、業務、施設内研修における介護技術、知識の習得に加え、集合研修や模擬試験等の機会を提供します。

→ 介護技術、知識の習得については、利用者に支援の提供を行いながらより実践的に身につくよう取り組んでいます。また、支援方法や業務について相談相手となる職員を配置しています。オンライン研修や通信添削等についても、スケジュール管理のもと、集中して取り組むことができるように調整しました。

3. 長期に渡る日本での生活の安定を図るため、就業環境及び住環境等の整備を行い、日常生活に関する相談やホームシック等のメンタルケアも実施します。

→ 住環境に関しては、必要物品の購入や搬入等により、就労及び自宅学習を円滑に行うことができるように整備すると共に、生活に関する状況の聴き取りや相談に応じることも適宜行っていま

す。また、家族や友人とこまめに連絡を取り合うことや日本語等の学習ができるように、インターネット環境も整え対応をしています。

【せいわ拠点】（そうじゃ晴々含む）

●吉備高原清和荘

障がい者支援施設（施設入所支援・生活介護）、短期入所、日中一時支援

【全体】

1. 法人理念の推進

昨年度、法人理念が完成し職員に提示することができました。

今年度、法人理念を理解し、共有していくために会議・研修を行います。また、清和荘理念との関わりをどのように行うか、委員会を立ち上げ検討します。

→ 職員会議において清和荘のビジョンと法人理念の理解を深め、思いを共有することに努めました。

2. 新型コロナ感染対策の実施

日頃より感染予防対策を継続すると共に、日々の職員の健康管理の徹底を図ります。また利用者の健康観察を行い、医療との連携を図り感染症対策を徹底します。定期的に必要物品の整備を行い、法人内の相互支援体制の構築を行います。

→ 昨年度と同様に、利用者・職員共に検温を実施。マスクの着用、必要に応じてゴーグルを着用しました。手洗い、うがいを徹底し、外部からの入荘については極力玄関での対応を心がけました。

3. 虐待防止委員会の設置

虐待防止等の責任者の設置、研修や虐待防止チェックとモニタリングを実施し、以前から有る虐待防止委員会を強化します。小さな出来事の共有・ひやりハットの見直し等虐待に繋がらない対策の検討を行います。

→ 虐待防止委員会を設置し、虐待防止委員会を実施。研修として、全職員に虐待防止の動画を視聴してもらいました。又、年2回の虐待防止チェック表によるチェックを行いました。

4. ハラスメントの未然防止

ハラスメント行為は人権に関わる問題である。多岐にわたるハラスメントの理解とその未然防止の為、利用者、職員の多様な考え方の把握と尊厳に努め、互いに尊重し合える安全で快適な施設を目指し、発生させない・許さない風土作りを構築します。

→ 啓発活動の為、施設内にポスターを掲示しました。

【介護部門】

1. 職員のスキルアップ

接遇や介護技術等、職員として必要なスキルを身に着けることができる研修を企画します。

→ のびのび委員会において「利用者がのびのび暮らせる施設」を目標に職員の良いところを投書する「スマイルカード」を実施し接遇の向上に努めました。また、発熱者発生時の対応の研修などを行い、職員のスキルアップに向けた施設内研修を行いました。

2. 生活支援員による喀痰吸引等の実施

喀痰吸引等の医療行為が必要で、受け入れできる福祉施設が少ないのが現状です。このため、夜勤を行う生活支援員が喀痰吸引等できるようにしていきます。

介護福祉士資格未取得者に対しては、介護福祉士受験のための養成機関による実務者研修（喀痰吸引等基礎研修を兼ねている）への法人の費用助成や研修の出勤扱い等の制度を活用した参加を促します。

→ 介護福祉士養成機関：R 4年度は2名の参加がありました。

喀痰吸引等基礎研修：R 4年度は対象の職員はいませんでした。

3. 外出・買い物機会の提供

1～16班編成で実施しているグループ外出を、毎週2回（火・木）行います。

毎週火曜日の移動スーパー来荘時に、自分で選んで買い物をしていただけるようにします。

→ 新型コロナ対策として、グループ外出は県内感染状況に応じて柔軟に対応しました。又、毎週火曜日、班ごとに分かれて移動スーパーの買い物を楽しんで頂きました。

4. 日中活動の提供

月～金曜日の午前・午後に様々な日中活動を提供します。定期的に日中活動会議を行い、より魅力的な活動を提供できるように努めていきます。

→ 生活介護営業日には、午前・午後、様々な日中活動を提供しました。又、利用者の参加状況を把握し、随時メニューの追加、内容の充実を図るための会議を行いました。

【相談部門】

1. 利用者・家族への情報提供、相談

障害者総合支援法等、障害者施策の動向把握に努め、利用者・家族への情報提供や相談対応、説明を行います。

→ 新型コロナ対策として家族交流会を自粛し、文書による情報提供や相談対応を行いました。

2. 地域との交流

地域住民との交流を深め、吉備高原清和荘のことを深く知ってもらい、利用者の社会参加のきっかけとします。

→ 新型コロナの感染状況を見ながら、地域住民との交流・利用者の社会参加を少しずつ行いました。

【医務部門】

1. 健康管理

・利用者の健康診断を年2回実施し、状態把握や嘱託医との連携を図っていきます。

→ R 4年度、利用者健康診断を2回実施しました。

・ラウンドによる観察、生活支援員との連携を行い、利用者の健康状態把握に努め、異常の早期発見、早期対応に努めていきます。入院時には家族への連絡、必要に応じて職員の支援等を行います。

→ 毎日計2回の検温を実施。毎月、体重測定、血圧測定を実施しました。

・利用者の入院中は、定期的な面会を実施し、状態の変化の把握と精神安定を図っていきます。

→ 利用者入院時、毎週1回定期的な面会を実施し、状態の変化の把握と精神安定を図りました。

【リハビリ部門】

嘱託医の指示のもと、PTを中心にOT、STと協働し、カンファレンスを含めて各部署連携を取りながらリハビリを提供します。また、利用者の心身状況に合わせたリハビリ内容の調整も行います。

→ 毎月1回、外科医師・整形外科医師の往診時、相談、指示を頂き、PTを中心にOT、STと生活支援員と協議し適切なリハビリを行って参りました。

【調理部門】

1. 利用者からの細かな要望にも応えられるよう、給食会議等で意見や要望の聴き取りを行い、献立に反映できるように努めます。

→ 給食会議を毎月1回実施。利用者の要望を取り入れたメニューを随時実施しました。

2. ST・各部署と協働し、利用者の状態に合わせた食事形態等の提供を行い、安心・安全に経口からの食事を継続していけるように努めます。

→ 月1回STが食事状況を見学し各部署により会議・検討し変更がある場合は食事形態の変更を行いました。

3. 栄養マネジメントを行い、個人の栄養状態や体重変動等を把握し、低栄養状態の予防や改善に努めていきます。

→ 栄養ケアプランを作成し3ヶ月毎の見直しを行いました。利用者の摂取状況に合わせ随時食事形態の変更を行いました。

●グループホーム清和

認知症対応型共同生活介護

1. 感染症や災害BCP策定により、利用者職員の安全とサービス提供できる体制を確保します。

→ 清和拠点のBCPに則り、事業継続に努めました。

2. 職員同士が互いに協力し励まし尊重できる関係でいることで安心して働ける環境作りに努めます。

→ ケアに行き詰まった時などに話し合い、お互い励まし協力し合うことが出来ました。

3. 注意を高め情報収集を行い、感染症対策マニュアルを見直し、ゾーニングや感染症発生時の演習や訓練を行います。

→ 事あるごとに感染症対策マニュアルの見直しや追加は行いましたが、演習や訓練は実施できませんでした。

4. 標準予防策の徹底、3密の回避、新しい生活様式の実践と共に記録物や電話等の共有物接触前の手指消毒の励行に取り組むことで感染症予防、または蔓延防止に努めます。

→ 記録物や共有物を扱う前には手指消毒を行いましたが、クラスター防止には至りませんでした。

5. 地域介護・福祉空間整備等施設整備交付金を活用し非常用自家発電を整備します。

→ 令和4年度は整備に至りませんでした。

6. 業務軽減・またはユニット間の情報共有、情報活用の実践を図るため、介護ソフトを導入し、記録のデジタル化を行います。

→ 「ほのぼのNEXT」「ほのぼのmore」を導入し業務軽減と情報共有に努めました。

●そうじゃ晴々

共同生活援助

1. 火災通報装置の設置やスプリンクラー設置及び夜間防災体制の整備等を行うことで昼夜を問わない安全体制を確保し、利用者の安全・安心の維持・強化を継続できる「非常災害対策計画」の見直しや「防犯に係る安全確保」の考察を行います。
→ 火災通報装置やスプリンクラーは設置済みですが、大切なのはその使用方法を職員全員が熟知し、いざという時にスムーズに使用できるということです。この点について、真庭消防や総社市消防本部からご指導いただきました。令和4年度から、年一回、総社市の消防署に来ていただき、避難訓練を実施、指導をいただいています。防犯に関しては、防犯カメラの設置を行い、夜間帯に隣接する通所棟の電気を付けておくなどの工夫をしています。
2. 利用者の日中活動を充実させるため、関係事業所との連携を深めます。
→ 共同生活援助事業所そうじゃ晴々の入居者は、一般就労をしている方、他法人の就労A型や就労B型に通勤されている方、他法人の生活介護に通われている方、隣接する多機能型事業所そうじゃ晴々など多岐に渡ります。利用者を関係機関で連携して支援するため、一般就労の方を除く各福祉事業所とは緊密なコミュニケーションやカンファレンスをとることができています。
3. 日常や体調不良時などの記録を整備し、過去から現在に渡る利用者の状態把握に努め、個別支援計画の作成・実施・見直しに反映させます。
→ 毎日のケース記録に加え、職員連絡ノートに少しでも気になることや考察等を書くようにしています。積極的に健康診断や歯科検診の支援を行っています。
4. 障害者虐待、身体拘束の知識を深め、防止対策に積極的に取り組みます。
→ 令和3年12月に虐待防止委員会の設立を行い、施設内で虐待防止研修を実施してきました。適時、個別面談等を行い、職員の意識を高めるようにしています。
5. 地域自立支援協議会に参加し、他施設・他機関とも連携し障害者の地域生活を支援します。
→ 地域自立支援協議会の会合等にはできる限り参加しました。また相談支援事業所との連携により、現在入居されている利用者が、今後も満足した地域生活を継続できるように、支援の見直しを定期的に行っています。
6. 地域交流の機会を増やします。企画、実施にあたっては、地域のボランティア団体や福祉機関、各種福祉活動をされている方々との連携、地域や近隣施設等への広報も行います。地域にある福祉施設としての役割を果たし、交流場所となる施設を目指します。
→ 令和4年度は新型コロナ感染予防に追われ、地域交流への取り組みが不十分なままとなっています。
7. アクティビティハウス空をご利用される利用者の支援を行います。
→ 現在、隣接する多機能型事業所そうじゃ晴々をご利用くださっている利用者は11名おられます。各々、生活介護、就労継続支援B型を使われています。隣接していることを強みに、密な連携をとることができています。

●そうじゃ晴々

多機能型（生活介護・就労継続支援B型）、日中一時支援

〔生活介護・日中一時支援部門〕

1. 緊急時対応方法の統一と訓練

利用者緊急時に全職員が適切な行動を取ることができるよう、徹底的な訓練を行います。

→ 緊急時の対応（心肺蘇生、AEDなど）についての看護師を中心とした施設内研修を行いました。消防署より、心肺蘇生の練習用人形や練習用AEDを借り受け、実際に訓練を行い、緊急時に備えました。

2. 介助技術の研鑽

拠点である吉備高原清和荘で培ってきた介助技術に甘んじることなく、さらに研鑽を積んでいきます。そのために必要な研修への参加や自己学習を推進し、その知識や技術を共有できる場を設けます。

→ 介護技術の知識を増やすために、一冊の本をマニュアルとし、知識の定着を図るため、職員全員に確認テストを実施していています。実践にも適用していています。

3. 個別支援計画の実施

個別支援計画を形骸化させることなく、真に利用者の自己実現に役立つツールとします。その目的意識を持って日々のケース記録を取ります。記録を共有しながら、日々の支援が個別支援計画で立てた目標に向かっているか振り返り、再考察を重ねます。

→ 毎週一名の利用者について順次カンファレンスを行っており、その際に必ずケアプラン情報の共有から始めるようにしています。そのケアプランをどう現場に落とし込み実践するかを話し合い、チェック表をつくり、実行しています。

4. 日中活動の更なる充実

日々実施されるレクリエーションの内容を充実・強化していきます。また、リハビリについても更なる充実を目指して取り組んでいきます。

→ 創作系、ゲーム系、運動系、外出系のレクリエーションを実施しています。

〔就労継続支援部門〕

1. 利用者緊急時対応方法の統一と訓練

利用者緊急時に全職員が適切な行動を取ることができるよう、看護師を中心とし、徹底的な訓練を行います。適時、消防署にもご協力をお願いしていきます。

→ 緊急時の対応（心肺蘇生、AEDなど）についての看護師を中心とした施設内研修を行いました。消防署より、心肺蘇生の練習用人形や練習用AEDを借り受け、実際に訓練を行い、緊急時に備えました。

2. 職業指導技術の研鑽

積極的に就労支援に関する研修会に参加します。

→ 令和4年度は、就労系の研修には参加できていません。

3. 個別支援計画の実施

個別支援計画を形骸化させることなく、真に利用者の自己実現に役立つツールとします。その目的意識を持って日々のケース記録を取ります。記録を共有しながら、日々の支援が個別支援計画で立てた目標に向かっているか振り返り、再考察を重ねます。

→ 毎週一名の利用者について順次カンファレンスを行っており、その際に必ずケアプラン情報の

共有から始めるようにしています。

●そうじゃ晴々

地域相談支援（地域移行・地域定着）、計画相談支援、障害児相談支援

1. 一人一人に丁寧且つ専門的な相談支援を実施する

モニタリング等を丁寧に行うことで、利用者との信頼関係を保ち、ニーズに応じた適切且つ専門的な支援を行っていきます。また、サービス担当者会議に限らず、必要に応じて質の高いカンファレンスを積極的に企画していきます。一つ一つの事例を通して、地域のネットワーク作づくりにも貢献していきます。

→ 利用者が抱えている生活課題、ニーズ等の聴き取りを丁寧に行いました。ご本人を中心に福祉サービスの組み立てを行いました。また、各事業所が連携しサービスを提供することができるようなサービス等利用計画書の作成を行いました。モニタリングでは利用者の生活の場に出向き、本人の満足度、サービス利用状況等を把握することに努めました。モニタリングで新たなニーズが表出された場合はサービスの調整を行いました。サービス担当者会議、支援会議を定期的に行いました。ご本人を中心に情報共有と課題解決に向けた話し合いを実施しました。会議を通じて行政、学校、福祉サービス事業所等とのネットワーク構築に努めました。

令和4年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ご自宅、学校、福祉サービス事業所への訪問を一定期間、自粛しました。その際は、電話による聴き取りを行いました。

2. 地域づくりに貢献する

自立支援協議会活動を始め、地域活動に積極的に参加して、地域づくりに貢献していきます。

→ 昨年に引き続き、吉備中央町地域自立支援協議会の「事例検討委員会」、「教育保育部会」、「相談支援ファイル検討委員会」の活動に参加しました。総社市では総社市障害者自立支援協議会相談支援事業所連絡会に参加しました。行政、福祉サービス事業所とのネットワークの強化に努めました。今年度より岡山県相談支援専門員協会の運営委員として活動しました。岡山県各地域の相談支援専門員とのネットワーク構築にも努めました。地域から岡山県の単位まで地域の問題を把握と解決に向けた方法の検討を各地域の相談支援専門員と共に取り組みました。

●吉備高原清和荘人材育成事業

1. 日本語教育は業務や介護福祉に関するものに留まらず、日常生活やコミュニケーションを含めた幅広い内容を進めていきます。また、介護福祉士資格取得を見据えての、より専門的、実践的内容の習得ができる環境、時間の確保に努めます。

→ 日本語教育の時間を週2時間から3時間に延ばしました。

2. 介護福祉士資格取得に向けては、業務、施設内研修における介護技術、知識の習得に加えて、集合研修や模擬試験等の機会を提供します。

→ 介護福祉士取得のための勉強会を週1時間から2時間に増やしました。

3. 長期に渡る日本での生活の安定を図るため、就業環境及び住環境をはじめとする生活環境の整備を行い、日常生活に関する相談やホームシック等のメンタルケアも実施します。

→ 週一度の買い物外出や、長期休暇を取得出来ています。

【さやか拠点】

●さやかなる苑

障がい者支援施設（施設入所支援、生活介護）、共生型通所介護、短期入所、日中一時支援

【施設入所支援】

1. 「法人理念」(MIND・職務行動指針)について、拠点事業所間、又は施設内会議等で目的や内容に関係のあるMINDもしくは行動指針を数項目共有し、開催します。(拠点施設、事業所全体で取り組む)
→ 拠点事業所間等の会議や委員会等の開催にあたり、法人理念の中で関する項目の共有を図りました。開催毎の共有はできませんでしたが、委員会においては職務態度に重きを置き、共有しました。
2. 新型コロナ対策として、感染症対策委員会を中心に情勢に沿ったマニュアルの見直しと改善を行います。感染流行期には短期入所事業や日中一時支援の営業を縮小または休業するなどして、入所利用者への感染リスクをできる限り最小限にします。また、利用者の退院等受入の際には、抗原検査キットを活用し、施設内に持ち込まない対応をします。
→ 新型コロナ対策では、情勢に沿った感染対策を行ってきましたが、令和4年12月30日に利用者1名が感染され、令和5年1月17日の終息までに、利用者24名、職員6名が感染するクラスターとなりました。終息後は感染症対策委員会を中心に、対応の見直し等を行いました。
3. ハラスメントの対策として、「禁句ワード(対応)集」を用いて、利用者に対する言動を見直せるようにします。その為に禁句ワード(対応)集の中から月間目標を設定し、実行します。また、評価できるシステム作りを行い、必要があれば改善します。他にも、第三者委員等の相談窓口の積極的活用を促進します。
→ 権利擁護・虐待防止委員会を中心に、月間目標設定と周知を行いました。また、目標を施設内に掲示し、利用者にもわかりやすく、常に心掛けて対応できるようにしました。
4. NDソフトウェアの記録ソフト、ケアパレットを使用するにあたり、タブレット端末を5台導入します。利用者の状態等の把握にタブレット端末を使用することで、記録業務の時間短縮や介護業務の効率化に繋がります。
→ タブレット端末を5台購入し、介護、医務等で情報管理を行いました。介護現場では主に排泄記録等を管理し、医務は検温等のバイタル管理を行いました。タブレット上でデータ管理をすることで記録の把握も容易にでき、記録業務も短縮されました。今後はより詳しくADL等の管理に努め、病院受診等でも情報把握ができるようにしていきます。
5. ICTの活用として見守り支援システム「眠りスキャン」を導入します。主に夜間の利用者の睡眠状況を把握し、安全な見守りの実現と日中の状況と合わせた質の高いサービス提供に努めます。
→ 夜間のサービスの質の向上のため、ベッドセンサーをレンタルし、使用しました。データの管理方法等職員間で周知はしましたが、導入までには至ってないので、今後引き続き検討していきます。
6. 令和3年度は退所者に加え入院者も多く、入所稼働率が低く推移しました。令和4年度は定員を

満床にし、高い稼働率で運営が出来るような体制を整えます。

→ 令和4年7月から12月は入所定員満床で営業できましたが、入院等医療的リスクが高くなるなどが原因で退所等となり、継続した満床での営業はできませんでした。

【通所生活介護】

1. 加湿器を使用するも室内の乾燥が激しく、感染症等のリスクが高くなっています。利用者に快適な空間を提供するために業務用加湿器を購入します。また、室内のエアコンフィルター、換気扇、送迎車内等の掃除を定期的に行い、感染症拡大防止の更なる強化を図ります。

→ 業務用加湿器を設置したことにより、以前は加湿器を5台フル回転で室内の湿度20%から40%以上の湿度が保たれました。「目が痛い。」「乾燥で咳が出る。」と言われていた利用者からも室内の乾燥による症状が改善され快適に過ごせると好評です。
2. 虐待防止週間を設け、利用者に対する言葉遣いや接し方について当番制でリーダーを決めます。勤務年数等に関係なくお互いに指摘し合え、発言できる環境を作ります。

→ 終礼時に当番制のスマイルリーダーが中心となり「これはどうだろう？」と気になった事や気づきを職員それぞれが発言したり意見を言い合い「どうしたら良いか、」「どうしたら出来るか」を考えたり、提案を行えるようになりました。
3. 利用者、家族に説明等する際には丁寧で分かりやすい言葉で行い、利用時の様子や気づき等を家族連絡ノートに記入し、利用者、家族との信頼関係を深めていきます。

→ 重度障がいの利用者のご家族には連絡ノートにて日中の様子等を毎回記入していましたが、自立度の高い利用者にも一言コメント等の記入を続けた所、利用者自身のご自分の思い等を記入、ご家族からも気になった事を記入して頂けるようになりました。また、些細な事でも利用者家族から気軽にご連絡をいただけるようになりました。施設の新型コロナ対策(利用チェックシート等)では利用者・利用者家族にご理解・ご協力をいただくため何度も連絡を行い、自宅訪問しご説明をさせていただくこともありました。
4. 新規利用者を増やし、稼働率アップを図ります。

→ 支援学校からの見学、実習の要望は新型コロナ感染拡大予防を徹底しながら、全て受け入れを行い、新卒の利用希望者がありました。しかしながらご希望の曜日や送迎(迎え)時間が合わず、ご利用の受け入れができませんでした。新型コロナで通所休業が2回あり、稼働率は下がりましたが、新型コロナクラスターで通所職員半数が入所応援に入るため休業した際には、残りの職員半数で感染予防対策を行いながら、自宅で入浴が困難な利用者の入浴サービスを行いました。利用者家族より労いの言葉も多くありましたが、「困っているのはお風呂だけではない」と厳しい声もあり、考えさせられました。また、他事業所(みすず荘、神南備園)と連携し新型コロナにて休業時には困られている利用者の受け入れもありました。
5. ほのぼの MORE を有効に使い、利用者情報や支援計画書を作成していくとともに個人ファイル等書類の整理をし、職員間での情報共有を円滑にしていきます。

→ 個別支援計画書の作成は従来の様式のままとなりなりましたが、計画書作成におけるケース検討、課題やニーズの把握、支援内容、アセスメント等個別のファイリングを整理するとともに職員間での情報共有に努めることができました。今後はほのぼの MORE の有効な活用に取り組みます。

【短期入所事業】

1. 令和4年度も新型コロナの影響で利用者の受入れを近隣地域のみに限定します。また、受入人数の制限等行いながらも、利用者のニーズを反映できるよう調整していきます。

→ 施設内で新型コロナ感染が出た際は、短期入所を一定期間中止するなどの確な対応を行いました。定員を2名に限定しながらも、定期の利用者以外に、介護者不足等での急な対応受け入れも柔軟に行いました。

2. 地域生活支援拠点事業を担う一員として、他機関と協力しながら、主に緊急時の受入体勢を構築します。輪番制の担当月には職員への周知、連絡体制の確認等を行い、受入整備をします。

→ 地域生活支援拠点事業では、緊急受入担当月の対応として、部署間等での情報共有を図りました。令和4年度は担当月に緊急受入依頼はありませんでした。

【日中一時支援事業】

1. 利用者の状況や特性に応じた支援方法を整え、安心した利用に繋げる為、支援内容や利用状況・様子について情報を共有します。

→ 日中一時利用時の際は、利用中の様子が把握できるよう日課表を作成し、家族に報告しました。

●グループホーム百

認知症対応型共同生活介護

1. 法人理念の理解促進のため、新人研修の際に理念、マインド、行動指針を説明します。また、施設内の各種会議や研修において、関連するマインドや行動指針を読むことで、会議等の目的や意義を意識し、理解を促進します。(さやか拠点、共通実施事項)

→ 研修や会議のさいに、法人理念の定着を行いました。

2. 新型コロナ対策としては、新型コロナ感染症対応事業継続計画(BCP)にそった対応を行います。またさやかなる苑と連携して、状況に応じたマニュアルの見直しと改善を行います。

→ 新型コロナの対策を都度協議しながら、感染症対応の事業継続計画を作成しました。状況に応じて利用者及び職員の抗原検査を適宜行い、蔓延防止に努めました。

3. ハラスメント対策としては、「禁句ワード(対応)集」を用いて月間目標を設定し、利用者への対応改善を行います。

→ さやかなる苑拠点の事業所合同で作成した「禁句 word 集」を施設内研修、新人研修等、で活用しました。外部研修は新型コロナ渦にて中止となりましたが禁句 word 集作成に取り組み、職員一人一人が身体拘束・虐待防止について新たに考える事が出来ました。

4. 『今できること』を大切に、NM スケールなどのツールを用いてご本人の認知や周辺症状を理解し、個別支援の充実に努め、ご本人らしく生活して頂ける支援を行います。

→ 新型コロナ渦で、あらゆる行事が自粛となり、予定していた外出支援や合同行事開催などは十分に行えませんでした。日常生活の中で可能な限り自立に向けてアセスメント・モニタリング取組み個別支援を行ってきました。今後もNMスケール、包括的自立支援プログラム、課題整理統括表などお一人お一人に合ったスケールでアセスメント・プランの作成をしていきます。

●ケアハウス百壽

軽費老人ホーム・特定施設入居者生活介護

1. 法人理念

新入社員へのオリエンテーション、現職員との面談、各種会議等で法人理念を話題にします。職員個々の思いと、法人理念・MIND・職務行動指針の項目を照らし合わせ、課題解決等に役立てていきます。

→ 新たな職員の採用毎に法人理念の説明とカードを配布し、理念の浸透に努めました。職員面談を行い、個人目標と理念を照らし合わせて次年度への新たな目標設定に向けて活用しました。

2. 新型コロナ

新型コロナの陽性反応が出た場合の職員の動きや防護服の着用方法など、新型コロナ感染症についての学習を施設内研修で定期的に行います。必要物品の在庫チェックを毎月行い、不足する物品があれば直ちに補充します。感染予防につながる施設内設備の環境を整えていきます。

→ 施設内研修で感染対策の勉強会を行った他、ガウンや手袋など装着し、レッドゾーンへの対応方法を学びました。また、感染症対策の備品も不足分購入しました。

3. ハラスメント

昨年度作成した「禁止 word 集」を有効に活用し、発する言葉・言い方に注意するよう、定期的に勉強会を行います。「利用者と職員」「職員同士」等様々な場面を想定したハラスメントを考え、どう対処すべきか考えていきます。

→ ハラスメントについての勉強会を行い、日常会話の中での何気ない発言がハラスメントに繋がりがねないことや、SNSを通じた動画や音声の拡散、自分の意志とは関係なく不利になってしまう世間の情勢を理解しました。

4. 健康管理と食生活の重要性

利用者の在籍期間が長くなれば、平均年齢も上昇し、食事摂取量や水分摂取量にも変化が生じてきます。栄養状態が悪化すれば、医療的処置や日常生活の様々な場面で介護の必要な方も増加してきます。食生活の安定と健康管理をしっかりと行い、入院者数を抑えることで、利用稼働率と収入の安定につなげます。

→ 利用者個々に合わせた食事形態で提供し、美味しく、楽しく食事が摂れるように、食事の盛り付け、食堂の雰囲気作りや美化に心掛け、利用者の健康状態に適した食事を提供します。

5. 個別支援の充実

新型コロナ禍で外出支援を積極的に出来ない中、個室内の環境整備や清掃、余暇時間の過ごし方をどのようにしたいのか聞き取り、居室内での過ごし方に着目します。利用者と職員との結びつきも強化し、定期的な個別支援を計画し、実行していきます。

→ 個室内の環境整備を必要な方に対して積極的に行いました。ベッドからトイレへの導線を短くし、転倒予防に努めました。

●さやかなる苑人材育成事業

1. 日本語教育は業務や介護福祉に関するものに留まらず、日常生活やコミュニケーションを含めた幅広い内容を進めていきます。また、介護福祉士資格取得を見据えての、より専門的、実践的内容の習得ができる環境、時間の確保に努めます。

- 日本語教育は日本語レベル N3 受験用テキストを用いて、日本語教師による学習を進めた。介護福祉士取得に関する学習については、パソコンの導入、学習時間の確保などを行った。
- 2. 介護福祉士資格取得に向けては、業務、施設内研修における介護技術、知識の習得に加えて、web を活用した研修や模擬試験等の機会を提供します。
- 施設内における介護技術や知識の習得に加え、過去問題や模擬試験による通信教育や、web を活用した e-ラーニングによる研修機会をもうけた。又、第 1 回目の EPA の 2 名が第 35 回介護福祉士国家試験に合格した。(令和 5 年 3 月 24 日通知)
- 3. 長期に渡る日本での生活の安定を図るため、就業環境及び住環境をはじめとする生活環境の整備を行い、日常生活に関する相談やホームシック等のメンタルケアも実施します。
- 生活が安定的に営めるように、定期的な買い物支援を行った。また、担当者による問題把握、さらには法人内の EPA 情報交換会を開催して、利用者同士の情報交換の機会を設けた。

【あいだ拠点】

1. 法人理念の浸透

法人理念を職員がいつでも見ることができるよう掲示し、仕事上でつまづいた時には理念を見直すことで原点に立ち返り、職員にとって理念が道標であり同じ目的であるよう、法人理念の浸透に努めます。

→ ロマンシティあいだ

職員の目につく場所に法人理念のポスターを掲示したり、クレドカードを職員一人一人が携帯することで、必要時にはすぐに法人理念を見直すことができました。また、職員研修を実施し法人理念の理解・浸透に努めました。

→ デイサービスセンターふれあい

事務所内、タイムカード横、玄関周辺と常日頃よく見える箇所に法人理念を掲示しました。年間研修計画にて、法人理念の研修を実施し遂行に努めました。

→ グループホームほほえみ

職員が認識しやすい場所に法人理念を掲示し、常に意識し仕事を行いました。介護に携わる専門職として、専門知識を持ち職員同士の相互研鑽に努め、指摘し合える信頼関係を高めるように努力しました。

2. 新型コロナ対策

標準予防策（スタンダードプリコーション）の徹底と、「咳エチケットと手洗いの励行」「3つの密の回避」「新しい生活様式の実践」に取り組むことで感染予防に努めます。

日頃からの検温等による健康状態の確認や、「いつもと様子が違う」といった状態の変化に注意することで、感染の早期発見・蔓延防止に努めます。

→ ロマンシティあいだ

令和 4 年 7 月 26 日から特別養護老人ホームロマンシティあいだにて、1 名の利用者から新型コロナウイルスの感染が確認され、8 月 8 日までに利用者 37 名/県報告者数（入院者 11 名、施設療養者 26 名、死亡者 5 名）、職員 24 名/施設統計（自宅療養）、合計 61 名が感染するクラスターが発生しま

した。また、新型コロナの感染が原因で入院し、死亡診断名が新型コロナではないが死亡された利用者は4名おられました。

クラスター終息後は、標準予防策の再徹底や体調管理等の感染予防に取り組み、職員や職員の家庭内での新型コロナの感染（職員4名）はありましたが、利用者の感染はありませんでした。

→ デイサービスセンターふれあい

職員は、感染予防を常に自覚し、マスクの着用、こまめな手洗い、換気と三密の回避と、毎日二回の検温、定期的な抗原検査を実施しました。

送迎時は、自宅での検温や手指消毒の実施、家族からの情報及び連絡簿にて確認をしました。

利用中は、体調を確認しながら早期発見、まん延防止に努めました。

ホール内は、一年を通して常に窓を二か所以上開けて、換気の徹底と飛沫防止対策を実施し、トイレ内や手すり等の消毒を毎日二回実施しました。

→ グループホームほほえみ

毎日の検温や手指消毒、アクリル板の設置、手すりや車椅子等の消毒を実施しました。職員は少しでも体調が優れないときは無理をせず休み、自宅療養を行いました。抗原検査を週2回実施し早期発見に努めました。

3. ハラスメント防止

ハラスメントのない環境でイキイキと働くことができるように、法人規程をもとに職員へ周知を図ります。利用者や家族などから受けるハラスメント（ケアハラスメント）について、基本方針及びマニュアルを作成し周知を図ります。

→ ロマンシティあいだ

法人規程およびマニュアルをいつでも職員が閲覧できるように、各事業所および必要な部署へ配置することで周知を図り、ハラスメント防止に努めることができました。

→ デイサービスセンターふれあい

就業規則の「職場におけるハラスメントの防止に関する規定」を事務所に掲示しました。

パワハラ防止法の資料を職員間で共有し、ハラスメントを認識し防止に努めました。

→ グループホームほほえみ

どのようなことがハラスメントになるか調べ、職員内で情報共有を行いました。

●ロマンシティあいだ

特別養護老人ホーム、短期入所

1. 利用者の生活歴や人間関係などの情報を知り、尊厳を持ったコミュニケーション（言葉遣いや傾聴）に努めます。また、常に相手の立場に立って考えることにより信頼関係を深める努力をします。

→ 新規利用者の情報をフェイスシートなどから読み取り、施設に早く慣れていただけるような会話を考え、丁寧な言葉遣いで会話をしました。また、利用者の不安をやわらげるような笑顔とコミュニケーションを大切にしたら結果、利用者から不満や困りごとの相談も増えてきましたが、利用者の職員に対する信頼が深まったためと思います。

2. 利用者の体調の変化を早期発見できるように声掛けや健康観察を行い、医師や家族と連携し迅速

速な医療連携に努めます。

→ 利用者の日々の検温と表情や訴えを観察し、普段と違う様子に気づけるように努めました。その都度、主治医や家族等へ状態報告を行い、三者間で連携が図れました。しかし、家族の医療に対する意向の判断が遅くなり、病院対応がすぐにできなかった利用者もいました。

3. 食事委託業者と連携を密にとり、衛生管理を行いながら利用者個々の状態に合った食事が提供できるよう努めます。

→ 毎日の室温、冷蔵庫内の温度測定、水質検査をはじめ、こまめな手指衛生、調理器具や冷蔵庫、扉の取手の消毒などを行い、環境衛生に努めました。また、配送食材の搬入時温度、調理済み食品の中心温度を測定するなど、食中毒予防に努め、利用者個々の状態に合った安全な食事の提供を行うことができました。

4. 個人の目指す介護職のあり方など目標を定めて、資格取得などにチャレンジします。

→ 介護福祉士国家試験や技能実習試験においては、合格を目指して学習しました。全員合格とはなりませんでした。来年度に向けて再挑戦する気持ちが生まれています。

介護職員で立てた毎月の施設内目標を掲示し、業務前や業務中に確認し行動指針としました。また、個人目標を立て毎月末に自己評価をすることで振り返りができ、今後の課題も見えてきました。

●デイサービスセンターふれあい

通所介護、介護予防通所サービス

1. 介護事故はいつでも起こりうるものだという「危険意識」を持ち、介護事故防止及び再発防止に努め、安全で快適なサービス提供に努めます。

→ 今年度は利用者の離設の介護事故があり、再発防止としてパソコンの向きを変更し常にホールに向いているようし、また、人感センサーを設置したり、本人の所在確認を行い再発防止に努めました。

利用中のヒヤリ・ハットを一層意識し、日々のミーティングにおいて介護事故の未然防止及び再発防止に努めました。

2. 住み慣れた在宅で安全に生活が継続できるように、ADLの維持・向上の支援等、常に在宅支援の視点に努めます。

→ 利用者の在宅での生活を考え、自立歩行なのか歩行介助が必要か否かを検討し、できる限り在宅と同じような形態で対応しています。

歩行訓練やみまさか元気体操、歌を歌いながら体操をするなど多様な訓練を実施しました。また、入浴や食事等も自立支援の視点に立って支援を行い、ADLの維持向上が図れています。

3. 利用者の社会的交流、家族の介護負担軽減の支援や介護の心配事に携わることで、本人と家族のリフレッシュできる環境であるように努めます。

→ 入浴を拒否される利用者には、本人の意思を尊重した声掛けを行い徐々に入浴ができるようになった結果、家族の介護負担の軽減に繋がりました。

家族が抱く介護の心配事等には、連絡簿や送迎時等に直接かかわり助言等を行い、不安の軽減に努めました。

4. 利用者に「楽しかった」「また来たい」と思える時間や環境作りを目指します。

→ 今年度は地域においても、新型コロナの感染が多数発生し、利用者のレクリエーションやお菓子作り、カラオケ等を制限せざるを得ませんでした。新型コロナの感染状況を見ながら、活動を中止したり再開したりと状況を的確に把握することで、少しでも利用者が楽しいと思える時間を作りました。

●グループホームほほえみ

認知症対応型共同生活介護

1. 利用者が安全で安心して過ごせるよう、そっと寄り添い温かく家庭的な空間づくりに努めます。

→ ここに居てもいいと思える空間づくり、1対1でのコミュニケーションや毎日のレクリエーションなどで、利用者を知り、安全・安心に過ごすことができました。

2. 利用者のSOSに早く気づき、1日2回の健康チェックを行い、その場に適切な対応に努めます。

→ 朝と昼の検温等を行い、異常時には早急に医師に報告することで異常の早期発見、早期対応に努めました。また、日頃から顔色や口腔内、皮膚の状態、浮腫等の状態観察や月1回の体重測定を行い、ミーティングにて情報を共有することができました。

3. 年間行事や地域の行事、催しに積極的に参加し、地域の方や家族とのふれあいの場を大切にする
ことで利用者の社会参加に努めます。

→ 地域の方や家族とのふれあいは、新型コロナのため催すことができませんでしたが、毎月の誕生日会や季節行事を開催したり、家族と連絡を密にとり日頃の様子をお伝えすることができました。

●ヘルパーステーションあいあい

訪問介護、訪問型サービス

1. 利用者の在宅生活が生きがいを持って送れるように、身体面、生活面、精神面においての充実を図るよう支援します。

→ 在宅生活を安定して過ごせているか、訪問時には利用者によく声掛けをして状況把握を行い、支援が必要な時は関係機関に連絡したり、サービスの調整をして援助しました。利用者が安心して過ごすことが生きがいに繋がっていました。

2. 職員は利用者一人ひとりに寄り添い、個人に合わせた関りを重んじた支援を提供します。

→ 利用者の個性に合わせたコミュニケーションをしっかりと図り、その方の気持ちに配慮して対応することで、信頼してサービスを利用していただくことができました。

3. 職員は常に利用者に適切なサービスが提供できるように連携し、お互いを高め合えるように質の向上を目指します。

→ 利用者と向き合い、利用者の言葉に耳を傾けることで、必要な援助が適切な対応へと繋がりました。

職員連絡ノートを活用し、サービスの変更や状況報告等を職員間で連絡を密に行うことで、サービスを円滑に行うことができました。

職員がともに利用者一人ひとりの事を考慮してサービスに当たり、相互に助言し合いながら援

助ができていました。

●ケアハウスA I D A

軽費老人ホーム

1. ケアハウスでの自立した生活が一日でも長く継続できるよう、日頃の状態観察を行い必要な助言、ケアの提供に努めます。
→ バイタルチェックの際などに、体調や体の気になること等を丁寧に聞き出すことに努め、場合によっては主治医に相談、受診し体調不安、不良の解消につなげることができました。
2. 季節の行事を大切にし、旬の食材を取り入れた食事献立の作成に努めます。
→ 利用者の要望を聞き、季節感のあるメニューの提供ができました。メニューの選択の希望があり提供することができました。

●居宅介護支援事業所英田

1. 介護保険制度のほかにインフォーマルな社会資源の情報収集や各種制度を理解し活用して、より良いサービス提供の提案ができるように努めます。
→ 地域ケア会議に参加して、現行の地域での取り組みや地域の社会資源が再確認できました。利用者家族支援で、介護サービス外での提案では、家族の負担軽減に繋がったケースがありました。
2. 感染症や災害が発生した場合であっても、必要な介護サービスが継続的に提供できるよう、BCPの作成、研修、訓練の実施等、体制の構築に努めます。
→ 研修に参加することで、BCPの様式に沿って作成していくことができ、また、机上訓練も体験できました。

●ロマンシティあいだ人材育成事業

1. 日本語教育及び介護専門職としての知識習得に向けた教育体制の確立
→ EPA 介護福祉士候補者に対して、自主学習以外に外部から講師を招き毎週 2 時間、介護の日本語の講義を行いました。また、介護現場での業務を通して、介護の知識・技術の習得に取り組みました。
2. 国家資格取得のための支援
→ EPA 介護福祉士候補者は介護福祉士国家試験対策として、自主学習以外に外部から講師を招き毎週 2 時間の国家試験のための講義に取り組みました。また、施設の介護福祉士が講師となり学習に取り組みました。令和 4 年度介護福祉士国家試験を受験した 2 名の EPA 介護福祉士候補者のうち 1 名が合格しました。
3. 生活環境（住環境等）、就業環境整備
→ 宗教観・国民性・生活習慣等を認識・理解することで受入れ施設として相互理解に努めました。また、住環境を整備することで日常生活の安定に努め、プライベートにおいても職員と交流することができました。

【保育事業】（兵庫県内）

●高羽COCORO

認定こども園

I 教育保育について（全体総括）

1年間、教育保育理念に基づき、業務を進めました。新しい児童の入園から5歳児の卒園まで一人ひとりの子どもと家族の思いを尊重し、コロナ禍でも安心できる保育環境を提供しました。

養護と教育については年度当初の計画通り活動を行うことは難しかったが、できる限り代替えの活動を取り入れました。

地域や社会との関わりを大切に、また、園の設備や機能についても安全対策の強化や日々の点検と衛生面に配慮した環境作りについて強化・改善することが出来ました。

II 入園児構成（令和5年3月31日現在）定員数90人

年齢（クラス名）	児童数（定数）	入園児童数
0歳児（ぽかぽかえがおぐみ）	10名	10名
1歳児（すくすくえがおぐみ）	14名	16名
2歳児（わくわくえがおぐみ）	15名	16名
3歳児（のびのびえがおぐみ）	15名	21名
4歳児（にこにこえがいくみ）	18名	19名
5歳児（きらきらえがおぐみ）	18名	22名
合計	90名	104名

・一時保育事業：4月の受け入れはなく一年間で延べ160名（月平均15名）の受け入れを行いました。

●宝塚COCORO保育園

I 教育保育について（全体総括）

1年間、教育保育理念に基づき業務を進めました。新しい児童の入園から5歳児の卒園まで一人ひとりの子どもと家族の思いを尊重し、安心できる保育環境を提供しました。

養護と教育については、年度当初の計画通りほぼ順調に活動を行うことが出来ました。

とくに、保護者の方とのコミュニケーションを大切に、クラスの保育方針等をお知らせし、子育てについて個別面談を実施しました。また、園の設備や機能についても安全対策の強化・改善をすることができました。小規模保育園宝塚ちいさなCOCOROと交流事業を実施しました。

新型コロナの件で、宝塚市の指導の下、保護者や子どもの安全に配慮した保育に取り組みま

した。消毒用品など対策に必要なものを購入、保護者への情報提供をしました。引き続き予防対策をして、子ども、職員の健康管理をしていきます。

II 入園児構成（令和5年3月31日現在）定員数140人

年齢（クラス名）	児童数（定数）	入園児童数	障害児
0歳児（ぼかぼかえがおぐみ）	9	12	
1歳児（すくすくえがおぐみ）	15	24	
2歳児（わくわくえがおぐみ）	24	24	
3歳児（のびのびえがおぐみ）	30	33	1
4歳児（にこにこえがいくみ）	31	32	1
5歳児（きらきらえがおぐみ）	31	31	2
合計	140	156	4

・一時保育事業：一年間で641名の受け入れを行いました。（月平均53人）

●琵琶COCORO保育園

●琵琶COCORO保育園まや分園

I 教育保育について（全体総括）

1年間、教育保育理念に基づき、業務を進めました。新しい児童の入園から5歳児の卒園まで一人ひとりの子どもと家族の思いを尊重し、安心できる保育環境を提供しました。

新型コロナにより、緊急事態宣言の発令があり、中止にした行事もありました。保護者参加行事は参加者の人数を制限するなどして、できる限り実施の方向で対応しました。また、新型コロナ感染により、クラス毎での登園自粛期間もありました。感染防止のため、朝の玄関での受け入れと検温の実施、園内の消毒、換気にも配慮し、手洗いや保護者の園内に入るときの手指消毒などを徹底しました。職員はマスクを着用し、幼児クラスの児童もマスク着用にしました。

子育て支援事業の「こころんひろば」も中止にした月もありましたが、年間5回実施し、参加者からも熱心に質問が出るなど、好評でした。

II 入園児構成（令和5年3月31日現在、）定員数60名

年齢（クラス名）	児童数（定数）	入園児童数
0歳児（ぼかぼかえがおぐみ）	7名	7名
1歳児（すくすくえがおぐみ）	9名	10名
2歳児（わくわくえがおぐみ）	9名	10名
3歳児（のびのびえがおぐみ）	12名	15名
4歳児（にこにこえがいくみ）	12名	16名

5歳児（きらきらえがおぐみ）	12名	13名
合 計	60名	71名

まや分園入園児構成（令和5年3月31日現在）定員45名

年齢（クラス名）	児童数（定数）	入園児童数
0歳児（ぽかぽかえがおぐみ）	4名	5名
1歳児（すくすくえがおぐみ）	6名	8名
2歳児（わくわくえがおぐみ）	6名	8名
3歳児（のびのびえがおぐみ）	10名	13名
4歳児（にこにこえがいくみ）	10名	13名
5歳児（きらきらえがおぐみ）	10名	12名
合 計	45名	59名

- ・一時保育事業：一年間で116名の受け入れを行いました。

●ゆりのきCOCORO

認定こども園

I 教育保育について（全体総括）

1年間、教育保育理念に基づき、業務を進めました。新しい児童の入園から5歳児の卒園まで一人ひとりの子どもと家族の思いを尊重し、安心できる保育環境を提供しました。

養護と教育については年度当初の計画通りに順調に活動を行うことが出来ました。

保育の充実や保護者のニーズの把握、明石市域の特性の把握などについては重点的に取り組み、

地域との関係も円滑に進めました。また、園の設備や機能についても安全対策の強化をするとともに、改善することが出来ました。

II 入園児構成（令和5年3月31日現在）定員215名

年齢（クラス名）	児童数（定数）	1号児童定数	入園児童
0歳児（ぽかぽかえがおぐみ）	18		18
1歳児（すくすくえがおぐみ）	24		36
2歳児（わくわくえがおぐみ）	30		40
3歳児（のびのびえがおぐみ）	42	5	55
4歳児（にこにこえがいくみ）	43	5	52
5歳児（きらきらえがおぐみ）	43	5	47
合計	200	15	248

●みなとじまCOCORO保育園

I 教育保育について（全体総括）

1年間、教育保育理念に基づき、業務を進めました。新しい児童の入園から5歳児の卒園まで一人ひとりの子どもと家族の思いを尊重し、安心できる保育環境を提供しました。

養護と教育については新型コロナの感染防止のため、中止や変更した活動もありましたが、その都度、計画を見直しほぼ順調に活動を行うことができました。また、園内の消毒、換気にも配慮し、手洗いや保護者の園内に入るときの手指消毒などを徹底しました。

送迎ステーション事業を提供していますので、子どもの安全、保護者の安心につながるようステーションの職員と連携をとりながら運営することができました。

II 入園児構成（令和5年3月31日現在、）定員数90名

年齢（クラス名）	児童数（定数）	入園児童数
0歳児（ぽかぽかえがおぐみ）	5名	6名
1歳児（すくすくえがおぐみ）	5名	8名
2歳児（わくわくえがおぐみ）	5名	9名
3歳児（のびのびえがおぐみ）	25名	20名 (みなとじま 11 ステーション9)
4歳児（にこにこえがおぐみ）	25名	21名 (みなとじま 8 ステーション 13)
5歳児（きらきらえがおぐみ）	25名	8名 (みなとじま 5 ステーション 3)
合計	90名	72名 (みなとじま 38 ステーション 34)

- ・一時保育事業：一年間でのべ4名の受け入れを行いました。

●桜町COCORO保育園

I 教育保育について（全体総括）

1年間、教育保育理念に基づき、業務を進めました。今年度は開園一年目で、新入児の中でも保育ルームあかしちいさな、ゆりのき在籍のステーションからの入園など様々な状況での受け入れとなった。開園一年目での保護者の不安をしっかりと受け止め、入園から5歳児の卒園まで一人ひとりの子どもと家族の思いを尊重し、コロナ禍でも安全で安心できる保育環境を提

供していきたいと取り組んできました。

新型コロナへの対応に配慮しながら、養護と教育が一体となった保育・教育を目指して、日常の保育・教育を大切に、子どもたちの成長を保護者と喜び合い、共育てが出来る保育園行事を計画、実施出来るように取り組んでいきました。

地域や社会との関わりを大切にした保育・教育の機会を設定したり、園の設備や機能についても安全対策の強化や日々の点検と衛生面に配慮した環境作りについて強化・改善しながら業務に取り組みました。

II 入園児構成 (令和5年3月31日現在) 定員数60人

年齢 (クラス名)	児童数 (定数)	入園児童数
0歳児 (ぽかぽかえがおぐみ)	3名	5名
1歳児 (すくすくえがおぐみ)	9名	8名
2歳児 (わくわくえがおぐみ)	9名	8名
3歳児 (のびのびえがおぐみ)	13名	16名
4歳児 (にこにこえがいくみ)	13名	2名
5歳児 (きらきらえがおぐみ)	13名	5名
合計	60名	44名

●保育ルーム ちいさなCOCORO

神戸市小規模保育

I 教育保育について (全体総括)

1年間、教育保育理念に基づき業務を進めました。新しい児童の入園から2歳児の卒園まで一人ひとりの子どもと家族の思いを尊重し、安心できる保育環境を提供しました。

養護と教育については年度当初の計画通りほぼ順調に活動を行うことが出来ました。とくに、家庭や地域との交流については重点的な取り組みを進めました。

また、園の設備や機能についても安全対策の強化や防災管理について強化・改善することが出来ました。ただし、個人差が大きい乳児期でもあるのでより一層のきめ細やかな保育の取り組みが必要です。

II 入園児構成 (令和5年3月31日現在) 定員12人

年齢 (クラス名)	児童数 (定数)	入園児童数
0歳児 (ぽかぽかえがおぐみ)	3名	4名
1歳児 (すくすくえがおぐみ)	4名	5名
2歳児 (わくわくえがおぐみ)	5名	5名
合計	12名	14名

●琵琶ちいさなCOCORO

神戸市小規模保育

I 教育保育について（全体総括）

1年間、教育保育理念に基づき、業務を進めました。新しい児童の入園から2歳児の卒園まで一人ひとりの子どもと家族の思いを尊重し、安心できる保育環境を提供しました。

養護と教育については年度当初の計画通りほぼ順調に活動を行うことが出来ました。

ただし、個人差が大きい乳幼児期でもあるので、より一層のきめ細やかな保育の取り組みが必要です。特に保育の充実や保護者のニーズの把握などについては重点的な取組を進めました。

また園の設備や機能についても安全対策の強化・改善することが出来ました。

II 入園児構成（令和5年3月31日現在） 定員12人

年齢（クラス名）	児童数（定数）	入園児童数
0歳児（ぽかぽかえがおぐみ）	3名	4名
1歳児（すくすくえがおぐみ）	4名	5名
2歳児（わくわくえがおぐみ）	5名	5名
合計	12名	14名

・一時保育事業：児童の定員数が満たしていたため受け入れを行いませんでした。

●保育ルーム 宝塚ちいさなCOCORO

宝塚市小規模保育

I 教育保育について（全体総括）

1年間、教育保育理念に基づき、業務を進めました。新しい児童の入園から2歳児の卒園まで一人ひとりの子どもと家族の思いを尊重し、安心できる保育環境を提供しました。養護と教育については年度当初の計画通りほぼ順調に活動を行うことが出来ました。特に、家庭との連携を大切にしながら一人ひとり丁寧に関われるように心がけてきました。ただし、個人差が大きい乳児期でもあるので、より一層きめ細やかな保育の取り組みが必要です。

園の設備や機能についても、安全点検の強化や防火管理についての強化・改善することが出来ました。

新型コロナ拡大予防については、宝塚市の指導の下、保護者や子どもの安全に配慮した保育に取り組みました。

II 入園児構成 定員数20人（令和5年3月31日現在）

年齢（クラス名）	児童数（定数）	入園児童数
1歳児（すくすくえがおぐみ）	10名	10名

2歳児（わくわくえがおぐみ）	10名	10名
合 計	20名	20名

●保育ルーム まやちいさなCOCORO

神戸市小規模保育

I 教育保育について（全体総括）

1年間、教育保育理念に基づき、業務を進めました。新しい児童の入園から2歳児の卒園まで一人ひとりの子どもと家族の思いを尊重し、安心できる保育環境を提供しました。

養護と教育については年度当初の計画通りほぼ順調に活動を行うことが出来ました。

ただし、個人差が大きい乳幼児期でもあるので、より一層のきめ細やかな保育の取り組みが必要です。また、園の設備や機能、災害への備えについても安全対策の強化・改善することが出来ました。

II 入園児構成（令和5年3月31日現在） 定員12人

年齢（クラス名）	児童数（定数）	入園児童数
0歳児（ぼかぼかえがおぐみ）	3名	4名
1歳児（すくすくえがおぐみ）	4名	5名
2歳児（わくわくえがおぐみ）	5名	5名
合 計	12名	14名

●保育ルーム あかしちいさなCOCORO

明石市小規模保育

I 教育保育について（全体総括）

1年間、教育保育理念に基づき、業務を進めました。新しい児童の入園から2歳児の卒園まで一人ひとりの子どもと家族の思いを尊重し、安心できる保育環境を提供しました。

養護と教育については年度当初の計画通りほぼ順調に活動を行うことが出来ました。特に保育の充実や家庭との連携については重点的に取り組みを進めました。

また、園の設備や機能についても安全対策の強化・改善することが出来ました。ただし、個人差が大きい乳児期でもあるのでより一層のきめ細やかな保育の取り組みが必要です。特に家庭との連携については重点的な取り組みを進めました。

II 入園児構成 定員数19人（令和5年3月31日現在）

年齢（クラス名）	児童数（定数）	入園児童数
0歳児（ぼかぼかえがおぐみ）	3名	5名

1歳児（すくすくえがおぐみ）	8名	8名
2歳児（わくわくえがおぐみ）	8名	7名
合 計	19名	20名

●保育ルーム 三宮ちいさなCOCORO

神戸市小規模保育

I 教育保育について（全体総括）

1年間、教育保育理念に基づき、業務を進めました。新しい児童の入園から2歳児の卒園まで一人ひとりの子どもと家族の思いを尊重し、安心できる保育環境を提供しました。

養護と教育については年度当初の計画通りほぼ順調に活動を行う事が出来ました。ただし、個人差の大きい乳児期でもあるので、より一層のきめ細やかな保育の取り組みが必要です。特に家庭との連携については重点的な取り組みを進めました。

また、園の設備や機能についても安全対策の強化や防災管理について強化、改善することが出来ました。

II 入園児構成 定員数19人（令和5年3月31日現在）

年齢（クラス名）	児童数（定員）	入園児童数
0歳児（ぽかぽかえがおぐみ）	5	5
1歳児（すくすくえがおぐみ）	7	7
2歳児（わくわくえがおぐみ）	7	7
合 計	19	19

●保育ルーム 磯上ちいさなCOCORO

神戸市小規模保育

I 教育保育について（全体総括）

1年間、教育保育理念に基づき、業務を進めました。新しい児童の入園から2歳児の卒園まで一人ひとりの子どもと家族の思いを尊重し、安心できる保育環境を提供しました。

養護と教育については年度当初の計画通りほぼ順調に活動を行うことが出来ました。とくに、家庭や地域との交流については重点的な取り組みを進めました。

また、園の設備や機能についても安全対策の強化や防災管理について強化・改善することが出来ました。ただし、個人差が大きい乳児期でもあるのでより一層のきめ細やかな保育の取り組みが必要です。

II 入園児構成 定員数12人（令和5年3月31日現在）

年齢（クラス名）	児童数（定数）	入園児童数
0歳児（ぼかぼかえがおぐみ）	3名	2名
1歳児（すくすくえがおぐみ）	4名	5名
2歳児（わくわくえがおぐみ）	5名	5名
合 計	12名	12名

●保育ルーム ゆりのきちいさなCOCORO

明石市小規模事業

I 教育保育について（全体総括）

1年間、教育保育理念に基づき、業務を進めました。入園から2歳児の卒園まで一人ひとりの子どもと家族の思いを尊重し、安心できる保育環境を提供しました。

養護と教育については年度当初の計画通りほぼ順調に活動を行うことができました。

ただし、個人差が大きい乳児期でもあるので一層のきめ細やかな保育の取り組みが必要です。

また、新型コロナの感染拡大防止に努めました。

II 入園児構成定員数19人（令和5年3月31日現在）

年齢（クラス名）	児童数（定数）	入園児童数
1歳児（すくすくえがお組）	9名	10名
2歳児（わくわくえがお組）	10名	10名
合 計	19名	20名

●三宮COCOROステーション

送迎保育ステーション

I 全体総括

送迎ステーションで保護者から送迎先のみなとじまCOCORO保育園の児童を預かり、児童を送迎車両によりみなとじまCOCORO保育園に送迎する施設を設置、運営しました。

送迎ステーションの施設では子どもの成長に応じた保育を行いました。

また、保護者とみなとじまCOCORO保育園との信頼関係をつなぐように職員同士がしっかりと連携して、子どもの情報など伝え合う体制ができました。

三宮COCOROステーションとみなとじまCOCORO保育園との安全なバス運行に関するマニュアルの見直しもできました。

II 入園児(送迎保育ステーション利用者)構成（令和5年3月31日現在）

年齢（クラス名）	児童数（定数）	入園児童数
----------	---------	-------

3歳児（のびのびえがおぐみ）	13名	7名
4歳児（にこにこえがいくみ）	13名	8名
5歳児（きらきらえがおぐみ）	13名	2名
合 計	39名	17名

●磯上COCOROステーション

送迎保育ステーション

I 全体総括

送迎ステーションで保護者から送迎先のみなとじまCOCORO保育園の児童を預かり、児童を送迎車両によりみなとじまCOCORO保育園に送迎する施設を設置、運営しました。送迎ステーションの施設では子どもの成長に応じた保育を行いました。

また、保護者とみなとじまCOCORO保育園との信頼関係をつなぐように職員同士がしっかりと連携して、子どもの情報など伝え合う体制ができました。

磯上COCOROステーションとみなとじまCOCORO保育園との安全なバス運行に関するマニュアルの見直しもできました。

II 入園児(送迎保育ステーション利用者)構成（令和5年3月31日現在）

年齢（クラス名）	児童数（定数）	入園児童数
3歳児（のびのびえがおぐみ）	13名	2名
4歳児（にこにこえがいくみ）	13名	5名
5歳児（きらきらえがおぐみ）	13名	1名
合 計	39名	8名

●こころんクラブ高羽

児童発達支援・放課後等デイサービス

I 療育について（全体総括）

小集団での活動を念頭にした体制で療育に取り組みました。昨年同様、来所後にまず自由遊びの時間を設けて児童の思いを受け止め、やり取りを楽しめる様に活動を設定しました。

また、各児童の場面ごとでの得手不得手に対応できるように可能な限り1対1の療育体制を取れるように職員配置を行いました。

隣接する保育園に在籍している児童については、日々の様子などからその特性についても理解を深めやすく、また、保育園行事等が行われる際にはそちらを優先したりなど、柔軟に対応することができました。

II 利用児構成（令和5年3月31日現在、卒園者含む）定員数1日10人まで

児童発達支援 8人
 放課後等デイサービス 16人
 延べ受け入れ人数：児童発達支援 345人
 放課後等デイサービス 1,181人

●こころんクラブ中山寺

放課後児童クラブ

I 事業の全体総括

保護者が就労などの理由で、放課後、家庭にいない宝塚市内に在住する小学1年生から6年生の児童に適切な遊びと生活の場を提供し、児童の健全な育成を図るとともに、保護者の子育てを支援しました。保育園の園庭やプールを利用して遊ぶことができました。山本、長尾南、長尾、宝塚COCORO保育園の児童とも交流することができました。

新型コロナの件で、宝塚市の指導の下、4月1日～3月31日まで新型コロナ対策を取りながら保育に取り組みました。

II 利用児童（令和5年3月31日現在） 定員数30人

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
人数	9人	9人	5人	3人	0人	0人	26人

●こころんクラブ山本

放課後児童クラブ

I 事業の全体総括

保護者が就労などの理由で、放課後、家庭にいない宝塚市内に在住する小学1年生から6年生の児童に適切な遊びと生活の場を提供し、児童の健全な育成を図るとともに、保護者の子育てを支援しました。いろいろな学年の児童とも関わりを深めることができました。中山寺、長尾南、長尾、宝塚COCORO保育園の児童とも交流することができました。

新型コロナの件で、宝塚市の指導の下、4月1日～3月31日まで新型コロナ対策を取りながら保育に取り組みました。

II 利用児童（令和5年3月31日現在） 定員数26人

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
人数	8人	6人	9人	2人	0人	0人	25人

●こころんクラブ長尾南

放課後児童クラブ

I 事業の全体総括

保護者が就労などの理由で、放課後、家庭にいない宝塚市内に在住する小学1年生から6年生の児童に適切な遊びと生活の場を提供し、児童の健全な育成を図るとともに、保護者の子育てを支援しました。いろいろな学年の児童とも関わりを深めることができました。中山寺、山本、長尾、宝塚COCORO保育園の児童とも交流することができました。

新型コロナの件で、宝塚市の指導の下、4月1日～3月31日まで新型コロナ対策を取りながら保育に取り組みました。

II 利用児童（令和5年3月31日現在） 定員数40人

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
人数	18人	7人	4人	6人	0人	0人	35人

●こころんクラブ長尾

放課後児童クラブ

I 事業の全体総括

保護者が就労などの理由で、放課後、家庭にいない宝塚市内に在住する小学1年生から6年生の児童に適切な遊びと生活の場を提供し、児童の健全な育成を図るとともに、保護者の子育てを支援しました。いろいろな学年の児童とも関わりを深めることができました。中山寺、山本、長尾南、宝塚COCORO保育園の児童とも交流することができました。

新型コロナの件で、宝塚市の指導の下、4月1日～3月31日まで新型コロナ対策を取りながら保育に取り組みました。

II 利用児童（令和5年3月31日現在） 定員数30人

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
人数	8人	3人	5人	5人	5人	3人	28人

新規事業の状況

■旧鶯園

なし

■旧千寿福祉会

1. 開設事業

桜町COCORO保育園開設（定員60名）（令和4年4月）

2. 整備事業

おおくぼCOCORO保育園開設（令和5年4月）

こころんクラブ長尾南2開設（令和5年4月）

施設整備、大規模修繕等

■旧鶯園

なし

■旧千寿福社会

1. ロマンシティあいだナースコール設備一式及び放送設備交換工事（令和5年3月）
2. おおくぼCOCORO保育園増築工事实施・竣工（令和5年3月）

収益事業の状況

■旧鶯園

1. 売電事業（太陽光発電事業）

設置場所：軽費老人ホームサンシティーうぐいす（屋根）

鶯園 南 No 1

鶯園 南 No 2

放課後等デイサービス事業所 Liebe 駐車場

■旧千寿福社会

1. 売電事業（太陽光発電事業）

設置場所：ケアハウス百壽（屋根）

グループホーム百（屋根）

デイサービスセンターやなはら（屋根・野立）

さやかなる苑（南側駐車場野立）

吉備高原清和荘（屋根）

グループホーム清和（屋根）

姫山の里（野立、屋根）

みすず荘（野立、屋根）

そうじゃ晴々（屋根）

職員研修の状況（法人共通）

■旧鶯園

1. 新人職員オリエンテーション及び緊急時の対応①
2. 接遇について、虐待防止
3. 食中毒及び感染症①衛生管理について
4. 褥瘡予防と高齢者の病気と障害の理解
5. 利用者の権利擁護、プライバシー保護
5. 感染症②について
8. 食事介助、事故防止、ポジショニング
9. 排泄介助、身体拘束について
10. 事業継続計画（BCPについて）①
11. 安全運転について
12. 介護事故①と身体拘束について

- 13. トランスファー、事故防止
- 14. ハラスメントについて
- 15. 感染症③について
- 16. ターミナルケア、精神的ケアについて
- 17. 認知症高齢者の理解
- 18. 介護事故②
- 19. 緊急時の対応について②（救急救命）
- 20. 職場内のハラスメントについて
- 21. コンプライアンス（倫理及び法令遵守について）
- 22. 事業継続計画（BCPについて）②、防災訓練

■旧千寿福祉会

- 1. 虐待防止の強化について
- 2. リスクマネジメントの強化について
- 3. 個人情報（特定個人情報を含む）取扱、漏えい防止について
- 4. コンプライアンスの遵守・強化について
- 5. 法人合同研修研修（新人研修・中堅職員研修・主任クラス職員研修）

理事会、評議員会等の開催状況

■旧鶯園

理事会	年月日
第1回	令和4年6月9日
第2回	令和4年7月28日
第3回	令和4年9月22日
臨時	令和4年10月13日
第4回	令和4年10月15日
第5回	令和4年10月15日
第6回	令和4年11月17日
第7回	令和4年12月14日
第8回	令和5年2月16日
第9回	令和5年3月14日

評議員会	年月日
第1回	令和4年6月24日
第2回	令和4年8月16日
臨時	令和4年10月13日
第3回	令和4年10月15日
第4回	令和4年12月23日
第5回	令和5年3月23日

種別	年月日
監事監査	令和4年6月1日
会計監査人監査	年間

■旧千寿福祉会

理事会	年月日
第1回	令和4年6月9日

評議員会	年月日
第1回	令和4年6月24日

第2回	令和4年7月28日
第3回	令和4年9月22日
第4回	令和4年12月14日
第5回	令和5年3月14日

第2回	令和4年8月16日
第3回	令和4年12月23日
第4回	令和5年3月23日

種別	年月日
監事監査	令和4年6月1日
会計監査人監査	年間

新型コロナウイルス感染症感染状況

■旧鶯園

	全体		岡山		神戸介護		保育	
	利用者	職員	利用者	職員	利用者	職員	利用者	職員
入所施設	123	124	30	52	93	72		
通所施設	9	15	1	4	8	11		
居宅支援等	41	6	9	1	32	5		
保育	112	33					112	33
放デイ・児童クラブ等	69	13	2	1			67	12
計	354	191	42	58	133	88	179	45

■旧千寿福祉会

	全体		岡山		保育	
	利用者	職員	利用者	職員	利用者	職員
入所施設	77	99	77	99		
通所施設	31	13	31	13		
居宅支援等	2	3	2	3		
保育	241	144			241	144
放デイ・児童クラブ等	67	12			67	12
計	418	271	110	115	308	156